

## 学校法人福岡学園 令和7年度事業報告の事業の概要

### 1. 教育の質の向上

(1) 歯科大学では、診療参加型臨床実習の充実を目的として、自験症例をシステムへ登録する仕組みを導入し、症例数の把握を行った。また、プロフェッショナリズム・コミュニケーション能力について、臨床実習時の参加態度や取組状況を把握し、指導上の課題を抽出した。これを踏まえ、次年度より参加態度を評価する仕組みを導入することとした。

大学院歯学研究科では、医科科目の講義・実習を必須科目とし、医科疾患の診断・治療に係る臨床演習を通じて口腔医学教育の充実を図った。

第119回歯科医師国家試験は、新卒49名、既卒20名の計69名が合格した。入学後に留年することなく国家試験に合格する割合は、昨年度私立歯科大学17校中第5位であったが、昨年度を上回る合格率を達成しているため、更なる上位進出の見込みである。

(2) 看護大学では、口腔ケア教育に関連する科目の整合性を教員間で確認し、口腔ケア看護教育モデルの可視化を行った。また、学修成果の向上を目的として教育教材のデジタル化を開始した。さらに、ディプロマ・ポリシーの達成度を可視化したディプロマ・サプリメントを卒業生に配布した。

大学院看護学研究科では、口腔健康に関する病態生理及び研究方法に関する教育を充実させた。また、歯科衛生士の社会人学生3名が所定年数で修了した。

第115回看護師国家試験は、110名中104名が合格し、第112回保健師国家試験は、受験者11名全員が合格した。

(3) 短期大学では、ディプロマ・ポリシーとコンピテンシーの対応案を作成し、ホームページで公表した。また、「専任教員認定歯科衛生士」の資格取得に向けた研修に教員が参加し、口腔保健に関する知識を深めた。

専攻科では、歯科大学及び看護大学との3大学合同講義を実施した。また、口腔機能の発達・維持・向上に関するセミナーを専攻科生が実施し、高校生における歯科衛生士の認知度を向上させた。

第35回歯科衛生士国家試験では、新卒50名全員が合格（合格率100%）し、既卒10名中9名が合格した。

### 2. 研究の質の向上

(1) 口腔医学研究センターでは、5つの研究プラットフォーム（PF）を構築し、学園3大学から選抜した29名の研究者を適切なPFに配置した。また、「口腔医学研究センターシンポジウム2025」を開催し、研究成果の発表を行った。

(2) 看護大学では、口腔を基盤とした保健・医療・福祉に関する研究成果を論文として発信し、海外誌（European Journal of Dental Education）に掲載された。

(3) 短期大学では、歯科衛生士研修支援センターでの研修受講者に対する調査結果を基に、学会発表5件及び論文作成4件を行った。

(4) 学園3大学は、研究倫理及び公的研究費等に係るコンプライアンス教育を実施し、対象者全員が受講した。

(5) 専任教員の論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は、歯科大学116編（うち欧文70編）、看護大学25編（同13編）、短期大学17編（同10編）であった。

### **3. 学生の受入れ・支援**

- (1) 学園3大学では、協定を締結している高校との連携を強化し、キャンパスツアー、出前講座、インターンシップの受け入れ等を実施した。看護大学においては、新たに中村学園女子高校との協定を締結した。
- (2) 歯科大学では、新キャンパス及び特待生制度に関する広報を強化し、オープンキャンパス参加者が前年度比約1.5倍となった。
- (3) 看護大学では、IRを活用した大学のブランド化による広報戦略を推進し、ホームページやSNS等で情報発信を行った。
- (4) 短期大学では、オープンキャンパス参加者の高校を訪問、SNSを活用した広報及び高大連携等の積極実施により、令和8年度も入学定員を充足した。
- (5) 令和8年度の入学者数は、歯科大学口腔歯学部115名、同大大学院17名、看護大学看護学部113名、同大大学院9名、短期大学歯科衛生学科87名、同大専攻科22名であった。

### **4. 社会との連携・貢献**

- (1) 地域連携センターでは、田村校区自治協議会と連携協定を締結し、同協議会等との連携活動である地域カフェ「かふえもりのいえ」において地域食堂の運営を開始した（年間12回、参加者1,010名）。また、歯科大生による子ども食堂における学習支援、市民向け健康イベントへの歯科医師の派遣、中学校職場体験の受入れ等の社会貢献活動を行った。
- (2) 短期大では、歯科衛生士研修支援センターにおいて9回の研修を実施し、延べ372名の参加があり、高い評価を得た。
- (3) 医科歯科総合病院では、令和7年度より入退院支援加算Ⅱ（190点）から加算Ⅰ（700点）への上位区分に変更し、235件の支援を行った。また、健診センターにおいては、充実した対応を継続した結果、対前年比120.1%の一般健診受診者が増加した。  
1日平均の外来患者数は810.1人、入院患者数は32.1人であった。
- (4) 老健施設では、コンサルタント会社のサポート会員を継続し、在宅復帰率30%以上の維持を図りつつ、施設類型を加算型で継続しながら入所者数の増加に取り組んだ。  
1日平均の入所者数は51.4人、通所利用者数は22.0人であった。
- (5) 国際交流については、歯科大学は、リバプール大学、ブリティッシュコロンビア大学、上海交通大学、慶熙大学校歯科大学との交流を実施したほか、看護大学は、リバプール大学と初の交流を実施した。

### **5. 組織運営及び財務・施設整備**

- (1) 私立学校法改正に伴い、役員、評議員、会計監査人の選任を行い、理事長に水田祥代氏、常務理事に田口智章氏の再任を決定した。
- (2) 働き方改革の一環として、学園3大学の教員を対象に専門業務型裁量労働制を導入するとともに、労務管理のデジタル化を推進するため、勤怠管理システムの導入を進めた。
- (3) 病院は、特定共同指導受審に向け準備委員会を設置し、電子カルテの記載および保険請求の再確認を病院全体で取り組んだが、結果として再指導となった。厚生労働省からの82項目の指摘事項に対し、院内の運用見直し等の改善を行い、改善報告書を提出した。
- (4) 新キャンパス整備計画Ⅰ期工事（新本館）は7月に竣工し、8月に引越しを実施して移転を完了させた。現在、旧本館の解体工事を実施している。

# 学校法人福岡学園 令和7年度事業報告書

## I. 法人の概要

法人の名称：学校法人福岡学園

住所：〒814-0193 福岡県福岡市早良区田村二丁目15番1号

電話：092-801-0411

URL：<https://www.fdcnet.ac.jp>

### 1. 法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和48年に大阪以西で唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系の確立・育成と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。平成25年4月からは、口腔医学に関する活動をアピールするとともに、歯学教育や歯科医療の実態に即したものとするため、学部学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更した。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」を有する。この他、全国初の「口腔保健学士」認定専攻科を持つ「福岡医療短期大学」、全国に先駆けて設置した高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。さらに、平成29年に「福岡看護大学」を開学させたほか、女性の就業環境整備のため、同年、「ぺんぎん保育園」を開設。大学院教育について、昭和60年に歯科大学大学院（博士課程）を開設させたほか、令和3年4月に看護大学大学院（修士課程）を設置するなど、更なる教育研究のフィールドを広げている。このように、本学園は、一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、看護師、保健師、歯科衛生士の養成及び教育・研究者の育成に努め、医療・保健・福祉の総合学園として、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

#### 【建学の精神】

福岡歯科大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、歯学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科医師を育成することを目的とし、社会福祉に貢献すると共に歯科医学の進展に寄与することを使命とする。

福岡看護大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、看護学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な看護専門職を育成することを目的とし、社会福祉に貢献するとともに、看護学の進展に寄与することを使命とする。

福岡医療短期大学：歯科衛生学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科衛生士を養成し、保健福祉に貢献すると共に、歯科衛生学の進展に寄与する。

### 2. 沿革

昭和47年 7月	学校法人福岡歯科学園寄附行為認可、福岡歯科大学設置認可
昭和48年 2月	福岡歯科大学附属病院開設
昭和48年 4月	福岡歯科大学開学
昭和55年11月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校設置認可
昭和56年 4月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校開校
昭和60年 3月	福岡歯科大学大学院設置認可
昭和60年 4月	福岡歯科大学大学院開設

平成 8年10月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校の福岡医療福祉専門学校への校名変更及び同校の社会福祉専門課程設置認可
平成 8年12月	福岡医療短期大学設置認可
平成 9年 3月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程募集停止
平成 9年 4月	福岡医療短期大学開学、福岡医療福祉専門学校開校
平成11年 2月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程廃止認可
平成11年 4月	福岡医療短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成11年12月	福岡医療短期大学保健福祉学科設置認可
平成12年 1月	福岡医療福祉専門学校社会福祉専門課程募集停止
平成12年 4月	福岡医療短期大学保健福祉学科開設
平成14年 1月	福岡医療福祉専門学校廃止認可
平成14年 8月	介護老人保健施設（サンシャイン シティ）開設
平成15年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科3年制へ移行
平成17年 1月	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院に改称
平成20年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科の専攻科が大学評価・学位授与機構の認可を得て、学士（口腔保健学）の専攻科として認定
平成23年 6月	法人名を福岡学園に変更認可
平成23年11月	福岡歯科大学口腔医療センター開設認可
平成23年12月	福岡歯科大学口腔医療センターを開設
平成25年 4月	福岡歯科大学の学部・学科名を口腔歯学部口腔歯学科に変更
平成28年 8月	福岡看護大学設置認可
平成29年 4月	福岡看護大学開学
平成29年 8月	ぺんぎん保育園開園
平成31年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科令和2年度から学生募集停止決定
令和元年 9月	福岡歯科大学収容定員変更認可(令和2年度から入学定員96名)
令和 2年 9月	福岡歯科大学医科歯科総合病院新病院開院
令和 2年10月	福岡看護大学大学院設置認可
令和 3年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科廃止
令和 3年 4月	福岡看護大学大学院開設
令和 4年 7月	50周年記念講堂竣工
令和 4年 7月	学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念式典挙行
令和 5年 4月	福岡歯科大学口腔医療センターを本院に移転
令和 7年 7月	福岡歯科大学・福岡医療短期大学新本館竣工

### 3. 設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況

(表1)

(令和7年5月1日現在)

学 校 名	学部学科等名	開 設 年 度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長 高橋 裕)	口腔歯学部 口腔歯学科	昭和48年	6	96	576	491
	大学院歯学研究科	昭和60年	4	18	72	43
福岡看護大学 (学長 榑木 晶子)	看護学部 看護学科	平成29年	4	100	400	447
	大学院看護学研究科	令和3年	2	5	10	17
福岡医療短期大学 (学長 田口 智章)	歯科衛生学科	平成 9年	3	80	240	210
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成11年	1	20	20	20

施設名	区分	開設年度	定員(人)	1日当り利用平均(人)	年間利用延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長 岡田賢司)	入所	平成14年	85	51.4	18,749
	通所	平成14年	40	22.0	6,447

#### 4. 出願者、入学者及び収容定員充足率等の状況

(表2)

学校名	学部学科等名	令和7年度入学者				令和8年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	210	194	165	82	304	287	221	115
	大学院歯学研究科	14	14	14	14	17	17	17	17
福岡看護大学	看護学部 看護学科	289	279	223	121	266	257	198	113
	大学院看護学研究科	7	7	7	7	9	9	9	9
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	103	103	100	98	91	89	88	87
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	40	40	22	20	55	55	23	22

(表3)

(毎年度5月1日現在)

学校名	学部学科等名	年度別収容定員充足率				
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9
	大学院歯学研究科	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6
福岡看護大学	看護学部 看護学科	1.0	1.0	1.1	1.1	1.1
	大学院看護学研究科	1.0	1.2	1.0	1.4	1.7
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	1.2	1.1	1.3	1.2	1.0

#### 5. 教職員数

(表4)

教員数

(令和7年5月1日現在)

	教授等	准教授	講師	助教	助手	その他	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
歯科大学	34	21	43	48	—	—	146	14	1	26	7	52	246
看護大学	10	1	7	11	11	—	40	1	—	—	—	10	51
短期大学	6	2	6	2	—	1	17	—	—	—	—	17	34
老健	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1
合計	51	24	56	61	11	1	204	15	1	26	7	79	332

(表5)

## 職 員 数

(令和7年5月1日現在)

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員等	介護職員等	医員	合計
歯科大学	45	5	2	30	—	—	—	82
看護大学	10	—	—	8	—	—	—	18
短期大学	4	—	—	—	—	—	—	4
病 院	19	—	—	1	131	—	73	224
老 健	3	—	—	—	14	32	—	49
保健管理センタ ー開設準備室	—	—	—	—	3	—	—	3
合 計	81	5	2	39	148	32	73	380

※非常勤職員を含む。

## 6. 役員・評議員・会計監査人・役職教職員

(令和8年3月31日現在)

(表6) 理事(定数7~11人)・監事(定数2~3人)・顧問

役職名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別
理 事 長	水 田 祥 代	平成22年6月3日	常 勤
常務理事	田 口 智 章	令和2年4月1日	常 勤
理 事	高 橋 裕	平成30年2月1日	常 勤
理 事	樗 木 晶 子	令和2年8月3日	常 勤
理 事	鳥 巢 浩 幸	令和7年3月26日	常 勤
理 事	石 橋 慶 憲	令和5年4月1日	常 勤
理 事	宮 口 嚴	平成17年8月3日	非常勤
理 事	瓦 林 達比古	平成27年10月1日	非常勤
理 事	古谷野 潔	平成26年8月3日	非常勤
理 事	海老井 悦 子	平成27年12月1日	非常勤
理 事	江 里 能 成	令和5年8月3日	非常勤
監 事	工 藤 重 之	令和5年8月3日	非常勤
監 事	西 方 和 久	平成25年1月1日	非常勤
顧 問	木 下 明	平成31年4月1日	非常勤
病院顧問	阿 南 壽	令和4年4月1日	常 勤
情報顧問	藤 村 直 美	令和4年4月1日	非常勤

※理事選任機関は、理事会並びに評議員会であり、構成員は理事会においては全ての理事、評議員会においては全ての評議員としています。

(表7) 評議員 (定数 12~16 人)

役職名	氏名	就任年月日
評議員	松 添 裕 晃	令和 元年 6 月 1 日
評議員	吉 永 修	令和 2 年 4 月 1 日
評議員	中 四 良	令和 2 年 8 月 3 日
評議員	赤 木 万喜子	令和 7 年 6 月 24 日
評議員	朔 啓二郎	平成 17 年 8 月 3 日
評議員	吉 住 朋 晴	令和 6 年 6 月 1 日
評議員	稲 井 哲一朗	令和 7 年 6 月 24 日
評議員	宮 園 真 美	令和 7 年 6 月 24 日
評議員	古 野 みはる	令和 7 年 6 月 24 日
評議員	岡 留 朝 子	令和 7 年 6 月 24 日
評議員	神 田 晋 爾	平成 29 年 8 月 3 日
評議員	菊 池 仁 志	令和 7 年 6 月 24 日

※本法人は、役員（理事、監事）及び評議員について、役員 of 健全な経営判断及び本法人の更なる発展をサポートするため、令和 3 年度から継続して日本私立大学協会の役員賠償責任保険（対象:理事、監事、評議員 保険期間:1 年間 総支払限度額:1 億円）に加入し、役員 of 損害賠償リスクを補償しています。

(表8) 会計監査人 (定数 1 人)

役職名	氏名	就任年月日
会計監査人	菊 池 武 彦	令和 7 年 6 月 24 日

(表9) 役職教職員等

**【福岡歯科大学】**

役職名	氏名
学 長	高 橋 裕
医科歯科総合病院長	鳥 巢 浩 幸
学 生 部 長	稲 井 哲一朗
図 書 館 長	米 田 雅 裕
口 腔 ・ 歯 学 部 門 長	玉 置 幸 雄
全身管理・医歯学部門長	香 川 豊 宏
社会・基礎医歯学部門長	日 高 真 純
医科歯科総合病院副病院長	都 築 尊
医科歯科総合病院副病院長	古 村 南 夫
医科歯科総合病院副病院長	樋 口 勝 規
医科歯科総合病院副病院長	中 畑 高 子

**【福岡看護大学】**

役職名	氏名
学 長	樗 木 晶 子
学 部 長	宮 園 真 美
学 生 部 長	荒 川 満 枝
函 書 館 長	晴佐久 悟
基礎・基礎看護部門長	山 下 久 恵
健康支援看護部門長	内 田 莊 平
地域・在宅看護部門長	吉 田 大 悟
教育支援・教学 IR 室長	荒 川 満 枝
大学院 研究科 長	飯 野 英 親

**【福岡医療短期大学】**

役職名	氏名
学 長	田 口 智 章
学 科 長	古 野 みはる

**【介護老人保健施設】**

役職名	氏名
施 設 長	岡 田 賢 司

**【事務局】**

役職名	氏名
事 務 局 長	石 橋 慶 憲

## II. 事業の概要

### 1. 教育の質の向上

#### 1) 口腔医学教育の実践

歯科大学では、“口腔”を身体の一つの臓器と位置づけ、現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することが、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって非常に重要であるとの考えから、「歯学から口腔医学へ」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、その実践に努めてきた。

また、口腔医学を推進させるために平成 27 年度に創設された「田中健蔵基金」による第 10 回目の事業として、歯科大学のアクティブ・ラーニング設備及び短期大学の歯科予防処置実習用器具購入費 490 千円の支援を実施した。

#### ○歯科大学

##### (1) 口腔歯学部

自己点検サイクルの充実・強化及び口腔医学教育を実践するため、令和6年度に完成したアセスメントプランに基づき今年度より各種委員会レベルで自己点検した取り組み状況を自己点検・評価委員会が点検・評価し、助言等を行うPDCAサイクルを確立させた。

また分野別認証評価の受審に向け、診療参加型臨床実習の充実の一環として、自験症例を実施した際にシステムへ登録する仕組みを構築し、症例数の把握に努めたほか、令和8年度の受審に向け、点検・評価報告書の作成を自己点検・評価委員会にて行った。

歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験については、12月2日、3日に学外試験監督者の下で実施され、第5学年全員が合格した。

公的化された共用試験において、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が主催するOSCEの評価者認定講習に合格した評価者によるOSCEを2月7日に実施し、円滑かつ厳格な試験を実施することができた。

##### (2) 大学院歯学研究科

本学の研究科における口腔医学教育の特徴である総合医学基本テーマを昨年に引き続き設定し、歯科以外にも医科科目の講義・実習を必修科目として医科疾患の診断・治療の臨床演習による口腔医学教育の充実を図った。また、研究科運営委員会を中心にコースワーク・リサーチワークの円滑な実施体制の検証をシラバス上にて確認を行う体制を今年度も継続した。学位申請の必須要件として例年実施している中間発表会においても、各専門領域の教員から

口腔医学に関連した口頭試問や研究アドバイスをを行うことで大学院生の口腔医学への理解を更に深めることができた。

大学院歯学研究科の令和7年度の学位取得状況は、課程博士14名、論文博士1名であった。

#### ○看護大学

##### (1) 看護学部

口腔ケア看護教育モデルの充実に向けて、全科目と機能的口腔ケアを含む口腔ケア教育に関連する科目の整合性を教員全員で確認し、教育モデルを可視化する取り組みを行った。

さらに、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づいて各項目の評価を実施し、点検を行った。

口腔医学教育の一環として、看護大学と歯科大学および医療短期大学との3大学共通科目を展開し、多職種で口腔関連教育を行うという貴重な体験の中で学生の有意義な学びを得ることができた。

##### (2) 大学院看護学研究科

歯科衛生士の入学受け入れ時に見直した教育3ポリシーに沿って教育し、3人の歯科衛生士（社会人）が予定年数で修了した。令和7年度に口腔医学、口腔健康に関する科目を充実させ、引き続き全大学院生に教育した。口腔健康に関連する病態生理科目と研究方法に関する教育を充実させて、令和7年度入学生から適用し、大きな課題なく運用できた。「口腔病態生理特論」と「看護・口腔医療連携特論」については、アセスメント・ポリシーに沿って教育評価を実施し、大きな課題なく教授できた。

令和6年度以降は歯科衛生士の入学者がいないため、今後の入学者確保に努める。

#### ○短期大学

##### (1) 歯科衛生学科

① 学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）等に基づく内部質保証活動の実践

学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づき実施したアンケートの調査結果等を勘案し、開業医実習の開始時期および期間を変更し、実習終了後に実施したアンケート調査では好評を得た。

② 多職種連携に関する学生の意識向上を目指した3大学共同の口腔医学教育の検討

歯科衛生学科は、看護大学との2日間の合同実習、専攻科は、歯科大学と看護大学との3大学合同講義を実施し、学科・専攻科ともに好評価だった。

た。

③ 超高齢社会に対応でき、指導的役割を果たす歯科衛生士の育成

例年、歯科衛生学科3年次が担当していた学園祭時の来場者を対象とした歯科保健指導を今年度から2年次が担当して実施し、講義実習で修得した知識に基づき、老若男女問わずしっかり指導を行うことができた。また、多様なライフステージに対応できる歯科衛生士の育成を目指し、乳幼児・青年期・高齢期の各世代を対象に、専攻科生が3つのグループに分かれて各世代に即した口腔機能の発達や維持・向上に寄与する内容を組み込んだセミナーを実施した。特に、青年期の福岡女子高校の高校生対象セミナーのアンケート結果では、歯科衛生士の認知度アップに寄与していることが確認できた。

## 2) 教養と良識を兼ね備えた有能な医療人の育成

学園3大学では、教員の意欲向上並びに教育の質向上及び改善を図ることを目的に制定した「最優秀教育改善賞要項」に基づき、令和7年度についても教育活動において顕著な成果を挙げ、他の教員の模範となる教員を選出した。

### ○歯科大学

ディプロマ・ポリシーで定められた医療人として必要なプロフェッショナリズム・コミュニケーション能力について、特に令和7年度においては、臨床実習時の態度・意欲の向上を目的に臨床実習実務担当教員を中心に学生の参加態度や実習の取り組み状況を把握し、指導上の課題の抽出を行った。抽出された課題を基に令和8年度より臨床実習の参加態度を評価する仕組みを導入することとした。また、昨年に引き続きIR運営委員会及び学務委員会にて、現行のカリキュラムにおいて、各学年で当該能力を獲得する機会が設けられていることを確認し、改善点を次年度シラバスに反映できるようデータの提示を行った。

### ○看護大学

#### (1) 高度な看護実践能力の育成

学生の履修状況や出席状況、成績評価や授業アンケート結果を注視しながら、カリキュラムを運営した。また、学修成果の向上を目指して、令和7年度から教育教材のデジタル化を開始した。教育内容の整合性や講義の順序性については、学生部長とも協働しながら調整した。

CBT・OSCEの導入に向けて、まず第3学年の空きコマを活用した実習・国家試験スタート

アップ（JKS）を実施した。出席確認の方法として出席登録システムの運用を開始し、学生へ浸透させた。すべての臨地実習も円滑に終了することができた。

卒業生には、4年間のディプロマ・ポリシーの達成度に関する可視化したディプロマ・サブメントを卒業証書と共に配付した。

#### (2) 実習体制の整備

「実習委員会」が主体となって、全学年の臨地実習を統括した。大学と実習施設の連携強化を目指し、引き続き、定例の「実習協議会」をオンラインで開催した。また、定期的に「実習指導者会議」を開催した。

実習委員会と看護大学危機管理室が連携し、安全及び感染対策や個人情報保護等のガイドラインを実習施設に提示し、医療環境の維持と安全な実習遂行のため臨地実習の調整を行った。臨地実習終了後は、実習指導者会議を通して、学修成果を実習施設にフィードバックし、常に協議を行う体制を形成することで、臨地実習を効果的に継続できるよう取り組んだ。

#### (3) 教育力向上のためのFD

教員の教育力向上を目的に、看護大学主催のFD研修を7回実施し、いずれの研修も対象教員の参加率100%であった。今年度の研修では、教務委員会と連携し、令和6年度に改訂された看護学教育モデル・コア・カリキュラムの変更点と各科目のDPについて理解を深めることを目的とした「看護学教育モデル・コア・カリキュラムとDPに関するFD研修」を行った。

#### (4) 大学院看護学研究科の教育

予定された就業年数で、長期履修生を含む8名の大学院生が研究科を修了した。歯科衛生士の受験の受け入れに伴って開講した新規科目も課題なく教授でき、授業計画を遂行できた。研究倫理教育を講義・オンライン研修で実施し、全員が受講して単位を得た。

令和7年度から配分される研究費を有効に運用するために、使用計画や会計報告に関する共通認識を徹底し、管理運用の透明化を進めており、大きな課題なく進めることができた。

講義・演習資料、中間発表会、最終報告会での発表資料のデジタル化を推進し、学生・教員参加者からの不満は生じずに、デジタル化を推進できた。

### ○短期大学

#### (1) 教育目的・目標を踏まえた学修成果の明確化

自己点検・評価委員会の下に設置した検討部会にてカリキュラムマップ案を完成し、次年度

再度検討を行い、関連会議に諮ることを決定した。また、同検討部会にてディプロマ・ポリシーとコンピテンシーの対応案を作成し、関連会議を経てホームページに掲出した。

## (2) 教員の教育力向上

体系的なFD・SD計画に基づき学内研修を3件実施したほか、学園主催の研修会10件も含めて、各研修会対象者が積極的に参加し、教育力等の向上に努めた。また、学外研修では、全国歯科衛生士教育協議会が実施している「専任教員認定歯科衛生士」の資格取得に向けた専任教員講習会Ⅰ～Ⅴの各レベルに教授1名、准教授1名、講師1名が参加し、口腔保健に関する知識を深めた。

## 3) 国家試験への取り組み強化

### ○歯科大学

教育支援・教学IR室の分析結果に基づき、低学年教育の充実と自主学修の促進を国家試験への強化策として引き続き実践した。特に学生との面談回数を増やし学修習慣の定着に積極的に関与した。具体的には、入学直後の学力テストの結果に応じて、各種補修講義を実施したほか、第1学年から学生2～3名ごとに1名の助教をサポートとして配置し、定期的な面談を通じて学修習慣や学修方法確立の支援を行った。

更に各学年の助言教員が学期途中に行われる中間試験の結果を基に面談を行い、学生毎の修学状況を早期に把握し、必要に応じて保護者への協力を得て学修状況の改善を促す取り組みを行った。第5学年、第6学年に対しては、学内試験や模擬試験の分析結果に基づき試験直後に学生自身が弱点を把握し克服することが出来るよう助言教員以外にも学年担当教員による学修指導面談を複数回実施した。

これら低学年からの複数年に渡る取り組みの結果、第119回歯科医師国家試験では、新卒49名、既卒20名の計69名が合格した。また、教育成果の指標の一つである「入学後に留年を経験せず、歯科医師国家試験に合格する割合」である修業年限での歯科医師国家試験合格率において、第118回歯科医師国家試験では、私立歯科大学17校中第5位となった。第119回歯科医師国家試験でも前回は上回る合格率を達成しており、さらなる上位進出の見込みである。

### ○看護大学

業者補講を活用し、学習方法習得や国家試験対策を実施した。各学年とも業者模試を取り入れ、実力の測定と学習の必要性を自覚するよう支援した。

第1学年は、解剖・生理学専門の教員による学修会を実施し、講義と連動させて知識の定着を図った。第2学年は、必修問題の学修を強化し、成績低迷者にはSAによる学習支援を行った。第3学年は、JKSの時間に知識強化を図り、国家試験の学修と実習での学びを統合させるための課題を電子化することによって効率化を図った。第4学年では、看護師・保健師ともに模試や補講の回数を増やし、教育支援・教学IR室で分析した結果に基づいて、学生に具体的学修強化策を提示し、成績低迷者には強化指導を実施した。第115回看護師国家試験は、新卒108名、既卒2名の計110名が受験し、104名が合格、合格率94.5%(全国新卒平均94.1%、既卒32.3%)で、既卒者1名も合格した。第112回保健師国家試験は、新卒10名、既卒1名が受験し、11名全員が合格し、合格率100%(全国新卒平均89.9%、既卒30.7%)であった。

### ○短期大学

受験者全員の合格を目指して、国家試験対策授業である口腔保健テーマ別講義や成績不振者対象の補習の実施、また、国家試験対策として計9回実施した臨床テストの個人成績表を配付し、自己の弱みを認識させる等対策を講じ、卒業決定後も成績別に国家試験直前まで更なる学力向上へ向けて補習を行った結果、第35回歯科衛生士国家試験は、新卒受験者50名全員が合格し、合格率100.0%(全国合格率94.5%)を達成した。既卒受験者10名については、科目等履修生として受入れ、年間を通じて学修支援を行った結果、10名中9名が合格し、合格率90.0%であった。

## 4) 短大の4年制化の検討

### ○短期大学

4年制化を見据え、専攻科の講義に今年度から医科系(小児科、整形外科、眼科、皮膚科、外科)の講師を招き、口腔から全身の健康を守る歯科衛生士を育てる教育内容を充実させた。

また、月1回英語論文による抄読会を当番制で開催し、教員育成に努めたほか、アカデミアとしての成果の可視化を推進した結果、今年度は、学会発表43件、英語論文5件、日本語論文2件の成果が得られた。

## 2. 研究の質の向上

### 1) 口腔医学を基盤とする研究の促進

#### ○口腔医学研究センター

先進的かつ独自性の高い研究活動を一層推進・拡充し、ブランディング強化を図るため、「常態系」、「病態系」、「再生系」、「臨床歯学系」、「医学系」の5つの口腔医学プラットフォーム(PF)を構築し、学園3大学から29名の研究者を選抜し、それぞれを適切なPFに配した。各PFでは口腔の健康は全身の健康を守るという「口腔医学」のコンセプトに基づいた共通目標のもと、独自の先駆的研究に取り組むとともに相互の連携研究にも取り組んだ。

12月8日に「口腔医学研究センターシンポジウム2025」を開催し、本館に新たに整備された口腔医学研究センター1～5並びに研究棟別館における研究活動の発表を代表者計6名が行った。

その他、本センターを活用した業績を取りまとめて、ホームページにて学内外へ公表した。

#### ○歯科大学

大学院歯学研究科において口腔医学研究を促進させるため大学院生へ口腔医学研究センターシンポジウムへの積極的な参画を促した結果、11名の大学院生が参加した。

#### ○看護大学

「看護と口腔医療」8巻を発刊し、口腔を基盤とした保健・医療・福祉に関する研究成果を発信し、8人の修士論文のテーマ中、4人が口腔に関するテーマであった。2025年度新規採択文部科学研究費においても基盤(B)に1件、基盤(C)に2件の口腔関連のテーマが採択され、継続中のものを合わせて基盤(B)で2件、基盤(C)で6件、口腔関連の研究を遂行している。これらの成果の一環として海外誌(European Journal of Dental Education)にも掲載された。

#### ○短期大学

歯科大学、看護大学との共同研究を引き続き推進した。厚労科研難治性疾患政策事業についても、小児の消化器難病の口腔内診察の長期フォローアップ計画を引き続き推進することとし、次年度新たに新規採択された。

#### ○アニマルセンター

令和7年度の動物実験計画承認書の申請件数は11件で、動物種の導入はマウス(SPF含む)が3,430匹、ラットが73匹、カエルが43匹を導入し、令和6年度と比較してラットの導入数が増加し、研究活動の活性化が見られた。

また、アニマルセンター使用者講習会は、更新者(4年毎)17名、新規登録者17名が受講した。

#### ○歯科大学・看護大学・短期大学

教育研究経費として、歯科大学には学長重点配分経費10,000千円、病院長重点配分経費5,000千円、学術振興基金事業経費24,000千円、看護大学には学長重点配分経費2,000千円、共同研究費1,000千円、短期大学には学長重点配分経費1,500千円、共同研究費500千円を配分した。

令和7年の研究業績は、歯科大学専任教員の総論文数(著書、総説、原著論文、症例報告等)は116編、うち欧文は70編であった。

看護大学の専任教員の総論文数(著書、総説、原著論文等)は25編、うち欧文は13編であった。

短期大学専任教員の総論文数(著書、原著論文等)は17編、うち欧文は10編であった。(別表1)

### 2) 研究ブランドの構築、研究の活性化

#### ○歯科大学・看護大学・短期大学

科研費の獲得状況は、別表2(歯科大学)、別表3(看護大学)、別表4(短期大学)のとおり。歯科大学では令和6年度と比して、採択件数58件から55件と3件減となり、採択金額は8,710千円減少した。看護大学では、採択件数18件から17件と1件減となったが、採択金額は6,656千円増加した。短期大学では、採択件数は9件から増減の変化はなかったが、採択金額は7,543千円減となった。

科研費獲得に向け、令和8年度の科研費公募時期に合わせて、昨年引き続き恒常的に研究助成金を獲得している教員によるFD「科研費獲得にかかるFD」を7月10日に実施するとともに研究計画書のブラッシュアップを実施するなど、全学的に外部資金獲得マインドの向上を図った。

#### ○看護大学

大学の研究ブランドの向上を目指して、看護分野における口腔ケア・口腔ケア教育に関する臨床看護研究を継続的に支援・推進した。研究科では、修了生8名中2名が口腔ケア、補綴物に関する臨床研究で修了した。

令和7年度から研究活動成果の収集方法をシステム化し、researchmapから業績を抽出する方法を実施しているが、大きな課題なく運用できた。また、研究業績集を図書委員長が中心となって作成した。

## ○短期大学

### (1) 私立大学研究ブランディング事業の成果を発展させた短大独自ブランドの構築

私立大学研究ブランディング事業の継続事業として実施している地域の高齢者を対象とした全身と口腔機能関連の測定を今年度は新校舎移転後2月に実施し、35名の参加を得てデータを蓄積することができた。また、例年通り測定結果を参加者にフィードバックし、健康維持に寄与できるよう努めた。

### (2) 歯科衛生士教育に関する研究の推進

歯科衛生士研修支援センターにおける研修会時の受講者質問紙調査から得られた結果について学会発表、論文作成を行った。

学会発表 5件

論文作成 4件 (3件投稿中、1件準備中)

## 3) 健全な研究活動の推進

### ○歯科大学・看護大学・短期大学

学園3大学の公的研究費不正防止計画に基づき、研究費の不正使用防止にかかる「公的研究

費等にかかるコンプライアンス教育講習会」を7月～10月にビデオ講演で実施し、学園3大学の教職員及び大学院生を含んだ受講対象者の434名全員が受講した。また、研究活動における不正行為防止にかかるFD「研究倫理教育FD講演会」についても7月～10月にビデオ講演で実施し受講対象者378名全員が受講した。

5～6月に新規の研究者を対象に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、「人を対象とする研究の倫理及び研究の実施に関する講習会」を開催し、合計89名が参加した。なお、その後受講を希望した研究者及び大学院生等へビデオ講習会を開催し、令和7年度は計239名が受講した。

## ○看護大学

個人情報等の情報管理のレベルから研究倫理に関する学部・大学院教育を強化するために、倫理教育を含む大学および大学院講義を実施した。

令和7年度は福岡学園の研究倫理講習会に加えて、「科研費の採択のためのFD研修」を開催し、教員43名全員が参加した。

## 3. 学生の受け入れ・支援

### 1) 教育現場活性化のための定員確保

#### (1) 高校等との連携推進

教育に係る交流・連携を図ることで、双方の教育研究力の向上、地域貢献や課題解決を目指すことを目的として、連携協定を締結している学園3大学と筑紫女学園高等学校との交流を、令和6年度に引き続き実施した。また、福岡市立高校4校を対象に学園3大学のキャンパスツアーや授業体験を実施した。更に令和6年度に連携協定を締結した福岡講倫館高等学校の生徒を対象に1～3年それぞれにプログラムを作成し、学園3大学の出前講義、インターンシップ受け入れを行った。

看護大学は、連携協定を締結した筑紫女学園高等学校、福岡市立高校4校および福岡中央高等学校との活動を実施した。また、新たに中村学園女子高等学校と協定を締結し、高大連携の強化を行った。令和7年度は、連携協定以外の高校も含めると、8校、212名の高校生をキャンパスツアーや授業体験に受け入れた。

また、看護大学では、依頼のあった高校及び業者主催の出張講義・進学ガイダンスにも随時参加した。短期大学との協働で行う高大連携活動も継続して行い、高校教員対象合同入試説明会及び研修会を7月に実施し、13校の参加を得た。

短期大学では、今年度も福岡女子高等学校1年生約300名を対象に専攻科生が歯科保健指導のセミナーを開催した。

## ○歯科大学

### (1) 口腔歯学部

7月に竣工した新キャンパス情報をSNS及び高校訪問等の学生募集広報として積極的に展開した。その結果オープンキャンパスにおいては前年より参加者が約1.5倍増加した。また、受験生ニーズが高い専願S特性生制度を令和8年度選抜においても一般選抜及び共通テスト利用選抜に継続して設定した。選抜日程については他大学の動向を早期に把握し日程を設定した。これらの取り組みの結果、令和8年度選抜において受験者総数は前年比約150%、入学者は前年比140%の115名と大幅に増加した。

### (2) 大学院歯学研究科

志願者増加のため昨年に引き続き大学院のすすめとして各講座の紹介を行ったほか、研修医の事前アンケートで希望の多かった教室の教授と大学院生の講演を実施し、大学院の周知・勧誘を行った。入学者数は17名であった。

## ○看護大学

### (1) 看護学部

学生募集のあり方や広報について、入試委員会を中心に検討した。高大連携事業の拡大、企画・運営に学生を参加させた2回のオープンキャンパス開催、進学説明会への参加（23会場24日間）、依頼のあった高校及び業者主催の出張講義・進学ガイダンスの参加、教職員による高校訪問も九州・山口・沖縄へ各1回実施した。

また、高大連携を積極的に推進し、新たに協定を締結した中村学園女子高等学校を含め協定締結校に対し、キャンパスツアー等を行った。それ以外に糸島高等学校看護コースからのキャンパスツアーも受け入れ、本学の魅力をアピールした。

さらに、IRと協働し、学生や高校生のアンケートなど各種データを分析し、魅力ある教育体制や学生支援に関する大学の強みをアピールする方策として、大学のブランド化を進め、情報を大学のホームページやInstagramで高校生向け・学生向けに作成し、適宜発信した。

その他、意欲のある学生確保に向け、入学者選抜方法の検証や妥当性、学修環境などについての分析を行い、特待生制度、奨学金制度を継続した。

志願者数は昨年比8%減の266名、競争倍率は昨年比同率の1.3倍となり、募集定員100名に対し、113名の入学者が決定した。

## （2）大学院看護学研究科

令和3年4月の開学以降、定員は充足しており、これまで学生が希望した修業年限で修了している。令和8年3月には長期履修生を含む8名が修了した。令和8年度入試では9名の入学者が決定した。

## ○短期大学

高校訪問において、オープンキャンパス参加者のうち訪問対象外の高校を訪問し、フォローアップを実施、高大連携校への出前講義や体験学習受け入れを積極的に実施する等、入学定員充足が継続するよう努めた結果、定員80名に対し、令和8年度入学者は87名となり、定員充足となった。また、専攻科も定員20名に対し学外入学者2名を含む22名となり定員充足となった。

## 2) 学生募集のための広報手段の拡充

### ○歯科大学

令和6年度に見直しを行った広報戦略を基に、よりWEBやSNSに軸足を移し、新キャンパス情報と特待生制度を中心に学生募集広報活動を展開した。また新入生アンケート結果等のデータを活用し、学生募集戦略の検証を引き続き行い高校訪問についても重点高校、訪問エリア、訪問頻度の見直しを行った。更に発信する情報を学生や保護者へより伝えやすくするため、ホー

ムページの受験情報のリニューアルを行った。

これらの取り組みによりオープンキャンパスの参加者及び受験者、入学者ともに大幅に増加した。

### ○看護大学

新入生を対象とした調査・分析結果を基に、学友会と連携して学生主体のオープンキャンパスを継続して実施した。また、出身校に対して学生が近況報告のハガキを作成し、高校訪問時に持参した。

大学パンフレットとホームページを見直し、内容の整理とともに学生による大学紹介のビデオを作成するなど、学生主体の広報活動を行った。

SNSの広告を活用し、受験者の多い福岡・沖縄の近隣の高校生及び高校生の親世代である40・50代を対象にInstagramによる広報を継続して行った。

### ○短期大学

#### （1）大学の強みや魅力を最大限に伝えられる広報戦略の検討

ホームページにオープンキャンパス時の様子や学生の実習中の様子を細目にアップした。入試情報頁については、文科省からの指導に基づき、これまで掲出していなかった過去問題や入試の経年結果等を追加掲出し、受験者への情報提供を充実させた。

#### （2）ホームページやSNSの発信内容の充実

担当教員が、在学生にも協力してもらい講義・実習風景、行事風景等の記事や動画のアップを細目に行い、目標としていたフォロワー600人越えを達成した。

#### 3) 学生支援体制の整備

##### （1）図書館の整備等

新本館移転に伴い、延べ床面積762.64㎡、座席数125席を有する福岡歯科大学・福岡医療短期大学図書館を8月に開館した。あわせて、名称を「情報図書館」から一般的な名称である「図書館」へ変更した。また、利用者の利便性確保および円滑な資料提供を目的として、貸出資料の返却延滞があった場合、一定期間貸出を停止するペナルティを科す内容へ利用規則を改正した。さらに新図書館の活性化を図るため、2023年度に決定したマスコットキャラクターの名称を募集し、正式に決定した。

令和6年度に引き続き蔵書情報整備の一環として、図書システムを用い、約9.5万冊の福岡歯科大学・福岡医療短期大学図書館の点検・整備を実施した。

研究データ管理基盤であるGakuNin RDMについて、利用開始のハードルを下げることを目的とした導入マニュアルを作成し、運用を開始した。

歯科大学では、外国語雑誌の高騰対策としてNatureおよびElsevierのPay Per Viewに加え、WileyについてもPay Per Viewを導入した。看護大学では、外国雑誌の見直しを行い、2026年から一部のタイトルの購入を中止し、より多くのタイトル数が閲覧可能なデータベースの提供を開始した。

そのほか、いつでもどこでも閲覧できる電子図書の充実を図るため、歯科大学では医学や歯科学、生成AI関連資料46冊を、看護大学では動画を中心に13冊を受け入れた。

## ○歯科大学

### (1) 保健管理センター

疾病等が原因で修学が困難な学生の早期把握と対策の検討を行う目的で保健管理センターと定期的に情報交換を行った。昨年に引き続き年度初めの学生及び大学院生向けオリエンテーションに保健管理センターの公認心理師に参加してもらい合理的配慮や保健管理センターを紹介し、学生が相談し易い環境を整備した。また、大学院生のメンタルケアについても、保健管理センターと情報を共有する体制を構築した。

### (2) 学修支援

成績不振等、特に指導が必要な学生の対応として助言教員制度の見直しを行った。進級できなかった学生も引き続き担当教員が変わることなく継続して指導や伴走する体制とし、長期間継続して同じ教員が指導できるよう変更を行った。

また、定期試験前に実施される中間試験の成績が不振の学生については、引き続き学生本人及び保護者と助言教員が面談を行い、学修方法・意欲・態度の早期改善に努めた。

更に、体調面や生活面で不安を抱える学生や保護者からの相談に学生部長、学生部次長、助言教員が個別に丁寧に対応した。

その他、障害学生支援に基づく、合理的配慮の提供についても現在、複数の対応を行っている。

### (3) 経済的支援

文部科学省の「学生等の学びを継続するための緊急給付金」及び日本学生支援機構や本学学生共済会の各種奨学金制度の説明会を開催し、内容の周知と手続きの支援を適宜実施した。

昨年に引き続き学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、各種特待生制度

による表彰を実施した。特に経済的に困難な学生に対して、各種外部奨学金の案内や学生納付金納付猶予等の支援を行った。また大学院生への経済的支援として例年どおり奨学金・TA・RA制度を設け、教育・研究活動の充実のため継続して支援を行った。

### (4) 学年別説明・保護者面談会の実施

毎年前期定期試験終了後に保護者と助言教員が面談を行い、学修支援の内容や大学の現状を説明することで大学・学生・保護者の三者のコミュニケーションの強化を図っており、令和7年度は8月3日に実施し、昨年とほぼ同じ約300名の保護者と面談を行った。面談に参加できなかった保護者に対してWEBや電話での面談も随時対応を行った。

### (5) 福岡歯科大学学生後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 学生後援会は、年2回の理事会・評議員会合同会議を対面とZoomによるハイブリッドにて開催したほか、今年度より毎月1回オンラインで理事会を実施し、学生支援について検討を行った。

② 学生共済会は、5月及び3月に理事会・代議員会合同会議を開催し、5月は前年度の事業に関する決算等について審議を行った。

③ 同窓会については、同窓生のご子息、ご息女対象オープンキャンパスを5月に実施した。

## ○看護大学

### (1) 学修支援

学期始めや試験期間の終わりなど、適切な時期にチューター教員による面談を実施してもらえよう、委員会やスタッフ会議で依頼した。特に支援が必要となる学生に対しては、保護者も交えた三者面談及び個別的な支援を行った。また、健康問題は、保健管理センターと密に連絡をとり協働した。

教育支援・教学IR室の情報分析を基に、学生のニーズを適時把握し学修環境の整備に活用した。

### (2) 学内活動の支援

学友会活動が活発になる支援を行い、学友会の企画・運営で総会と学生交流会、オープンキャンパス、学園祭で、学生同士が協力し支え合って活動できた。

### (3) キャリア支援

看護師・保健師としての就職活動、助産師課程への進学等については、毎年度ガイダンスを改善しながら実施している。令和6年度に引き続き、就職・進学への姿勢や学修方法等について4年次の学生から下級生に情報伝達交流会を実施した。

#### (4) 学生の経済支援の充実

各種奨学金の周知とその申請手続きの支援等を適宜実施した。

また、本学独自の看護職育成奨学金制度の周知を行い、個別に学生相談を実施した。

学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対する各種特待生制度の人数を令和8年度入学者から1名増員することとした。

#### (5) 福岡看護大学学友会・学生後援会との連携

4月の学友会総会開催を支援し、学友会の役割と令和7年度予算案等について協議ができるように支援した(学長、学生部長等参加)。5月と10月には、学長、学部長、学生部長等が出席のもと、学生後援会理事会において学生の学修や成長、学修成果、各種活動について情報を共有するとともに、学生の支援のために実施する諸事業について報告し、令和7年度予算に係る事項について協議した。

### ○短期大学

#### (1) 成績不振者や精神的不調の学生に対する支援体制の強化

短大全教職員が連携を密にし、情報を共有し、学生への声かけ等細目なケアを行い、学生をサポートした。また、学年担任や専門資格(公認心理師、精神保健福祉士)を有する教員による面談の実施や成績不振者への補習実施等細目な学修支援を行った。

## 4. 社会との連携・貢献

### 1) 安全で良質なサービスの提供

#### ○医科歯科総合病院

看護の質の維持、向上を図るため、新人看護師・中堅看護師を対象とした院内外の研修会に参加し修了した。

3大学相互チェックにおいて、他大学での安全・感染管理を確認し、当院でも取り入れられる項目について検討を行った。

昨年引き続き紹介医療機関や近隣医療機関との連携を強化し地域医療の充実に寄与することを目的に「福岡歯科大学医科歯科総合病院連携の会」を開催し、105名の参加があり、今後の地域の医療について意見交換を行い、連携を深めた。

#### (1) 患者数等

外来患者数は、歯科は対前年98.3%の138,214人、医科は対前年93.1%の58,177人であった。入院患者数は、歯科は対前年89.5%の4,614人、医科は対前年99.6%の5,755人であった。健診受診者は、対前年99.9%の

#### (2) 経済的支援

例年どおり各種奨学金の案内及び手続きの支援や経済的に困難な学生の相談を受け、学生納付金納付猶予等の支援を適宜行ったほか、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、特別奨学生制度を実施した。

#### (3) 福岡医療短期大学学友会・学生後援会・同窓会との連携

学友会は、学長、学科長、学年担任等が出席し、6月に総会を開催し、事業計画と役割、令和6年度決算案・令和7年度予算案等について協議した。

学生後援会は、入学式・卒業式時に理事会、入学式時に総会を開催し、役員を選任、令和6年度決算案・令和7年度予算案等について協議した。

同窓会は、短大関連の情報や学園行事等について適宜同窓会専用のホームページに情報を掲載する等連携強化に努めた。

#### 4) 文部科学省「高等教育の修学支援新制度」の対象校に選定

文部科学省が実施する意欲ある子どもたちの進学を支援するため、授業料・入学金の免除または減額と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充による高等教育の修学支援制度の対象校として、歯科大学、看護大学、短期大学の3大学が引き続き選定された。

8,892人であった。

外来患者

・ 歯科	R7 : 138,214人 [543.2人/日]
	R6 : 140,546人 [550.1人/日]
・ 医科	R7 : 58,177人 [229.0人/日]
	R6 : 62,501人 [244.6人/日]
外来計	R7 : 196,391人 [772.3人/日]
	R6 : 203,047人 [794.7人/日]

入院患者

・ 歯科	R7 : 4,614人 [12.6人/日]
	R6 : 5,153人 [14.1人/日]
・ 医科	R7 : 5,755人 [15.7人/日]
	R6 : 5,777人 [15.8人/日]
入院計	R7 : 10,369人 [28.4人/日]
	R6 : 10,930人 [29.9人/日]

令和7年度決算の資金収支差額(借入金返済に係る支出を除く)は、▲337,081千円となった。

#### (2) 歯科医師臨床研修

令和7年度歯科医師臨床研修は、プログラム

I並びにプログラムIIにより実施した。予定通りの研修を実施し、研修歯科医75名全員（プログラムI臨床研修歯科医56名、プログラムII臨床研修歯科医19名）に対し、令和8年3月19日に修了証を授与した。

## ○老健施設

### (1) 利用者数

施設の独立した採算を目指して、令和7年度は施設活性化検討委員会を11回開催し、利用者増、業務改善を図った。また、5月以降はコンサルタント会社とメール及びFAXでの問合せのみとするサポート会員としての契約を継続中であり、稼働アップ及び業務改善プロジェクト会議の内容を運営委員会で引き続き協議し、在宅復帰率30%以上の維持から令和6年9月以降は施設類型を加算型で継続しながら入所者増を目指す方針とし、収支改善に努めた。

令和7年度入所1日平均は51.4人（令和6年度：50.7人）で、前年度比0.7人増、通所利用者は、令和7年度1日平均は22.0人（令和6年度：20.8人）で、前年度比1.2人増となった。

サンシャインシティ施設利用者数等は10のとおり。

表10 サンシャインシティ施設利用者数等

利用者 (定員)	年間利用 延数(人)	稼働率 (%)	対前年比	1日当平均 (人)
入所者 (85人)	18,749	60.5	0.8%増	51.4
通所 (40人)	6,447	55.0	3.0%増	22.0

介護収入は346,905千円（前年度比1,313千円増）であった。

### (2) 教育・実習施設としての活用

歯科大学第1学年9名が介護施設体験、看護大学第1学年120名がフィールド研修、第3学年97名が在宅看護実習、短期大学歯科衛生学科第2学年26名が介護職員初任者研修、第3学年28名が口腔介護実習を行った。法人グループ以外では、九州大学歯学部は10名、福岡大学医学部看護学科は10名、同医学科は2名、中村学園大学の大学院生は6名が実習を行った。また、令和7年度短期大学の介護職員初任者養成研修に施設介護職員を講師として派遣した。

## 2) 国民皆歯科健診に向けた体制の確立

### ○短期大学

専攻科生が病院内や高等学校での歯科健診に従事し、実践力を磨いた。また、月1回の短大・病院連携作業部会も例年通り開催し、実習内容改善に向けて活発な意見交換が行われた結果、今年度の臨床実習も滞りなく行うことが

できた。

## ○医科歯科総合病院

健診センターでは、センター設置以来、口腔ケアの重要性の理解をすすめて、歯科受診を促してきた。令和7年は前年同様、歯科検診予約目標の80件を達成し、診療科への紹介も114件と病院収入に貢献した。

### 3) 地域連携センターの取り組み

本センターは、地域団体との連絡調整を行って学園全体の地域貢献の取り組みを支援してきた。令和7年度は出前講座、歯科無料相談および看護大学生の地域行事、歯科大生の地域小学生への学習支援等ボランティア活動を行った。

#### (1) 社会貢献活動における連携団体

① 福岡学園の所属する田村校区自治協議会と連携協力に関する協定書を締結した。また、田村校区自治協議会および社会福祉協議会との連携活動『地域カフェ「かふえもりのいえ」』では令和7年度から地域食堂を開始し、田村公民館において毎月第3日曜日に計12回（参加者1,010名、スタッフボランティア338名）実施した。

② 野芥校区自治協議会・早良区社会福祉協議会・福岡未来創造プラットフォームとの連携のもとでの同校区子ども食堂への学習支援は12回開催され、歯科大学学生1名の派遣と福岡市西部地区五大学連携及び福岡未来創造プラットフォーム共同開催参画大学の学生38名の派遣の連絡調整を実施した。

③ 公民館・自治会等からの要請に基づき、出前講座を9件実施167名が受講し、地域住民等に健康情報を提供した。

④ 中村学園大学栄養クリニックを主催とする健康イベント「健康開花フェスティバル2025」（6月14日）に歯科医師2名を派遣し、15件の相談を受けた。

⑤ 福岡市歯科医師会が主催する市民向け健康イベント（「福岡市民の健康を歯と口から守る集い」（11月9日）が「ららぽーと福岡」で開催され、9名の歯科医師を派遣し、口臭・禁煙、口腔外科（口腔がん）、歯周病、小児歯科、矯正歯科の5つの相談ブースで88名の相談を受けた。また、糸島歯科医師会主催の歯科無料相談に歯科医師を2名派遣し、81名の相談を受けた。

⑥ 七隈線沿線三大学連携において実施の中村学園大学栄養科学部大学院生の歯科大学施設利用臨地実習は7月31日にサンシャインシティで6名の大学院生を受け入れた。

⑦ 次郎丸中学校の2年生15名が3大学で職場体験(10月1日)を行い、歯科医師・看護師・歯科衛生士の職業をより身近に感じてもらえるよう実習・講義を行った。

⑧ 地域と学園教職員・学生との人的交流は、田村自治協議会主催の各種イベントへの学生ボランティアの参加や地域の子ども会チーム等の学園祭への参加などで行った。

## (2) 地域住民向け健康教育等の公開講座開催

① 三大学の公開講座は、短期大学で「災害のために備えておくこと」、「共助のまちづくりへの支援」、「災害とお口のケア」、「災害時の医療支援と避難所の健康管理—腸内ケアを含めて—」(令和7年10月19日、参加者106名)、看護大学では「めざそう！トリプルハッピー子育て」(令和7年10月4日、参加者47名)、歯科大学では「生活習慣病を管理して健康寿命をのばしましょう」、「まさか歯周病が心臓病につながるなんて！？～お口の健康があなたの命を守る～」(令和7年10月26日、参加者44名)を開催し、いずれも盛況となった。

② 大学連携で七隈線沿線三大学合同シンポジウムは「「お口の健康」が拓く健康寿命の延伸」、「健康寿命延伸に向けた食の役割 ～久山町研究を中心に～」、「2型糖尿病と肥満症の最新の話題 ～健康寿命の延伸を目指して～」(令和7年9月7日、参加者69名)を開催した。

## ○歯科大学

同窓生や開業歯科医師等を対象とした生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信に努めた。令和7年度は4プログラム(「口腔インプラント初級講習会」、「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」、「睡眠時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」、「歯周組織再生療法セミナー」)を開催し、49名が参加した。

## ○看護大学

地域連携の範囲は、田村・田隈・野芥公民館、近隣の小・中学校、早良警察署、高等学校、企業や近隣病院・施設に渡り、産・官・学・民の連携を強化した社会貢献活動を学生・教職員で実施した。また、看護継続教育として、「看護に活かせる口腔教育研修」の基礎編を6月21日に開催し、参加者は27名、応用編は7月26日に開催し、参加者は25名であった。これらの活動報告については、大学ホームページおよびInstagramで発信した。

## ○短期大学

(1) 自治体や医療・保健・介護・福祉等の職能団体との連携による社会貢献活動の推進

例年通り、地域高齢者の「おしゃべりつく会」に月1回担当教員が講師として参加し、地域高齢者の健康維持に寄与した。学生ボランティア活動についても、高齢者施設への手作りごみ箱やカレンダー作成等積極的に行った。また、「かふえ もりのいえ」の運営にも携わり、【地域食堂】も滞りなくスタートし、幅広い年代の方にご参加いただき、健康維持の支援の一助となるよう努めた。

## (2) 厚生労働省補助事業「歯科衛生士の人材確保実証事業」

標記補助金事業に令和6年度に引き続き採択され、歯科衛生士研修支援センターにより5月から令和8年1月にかけて9回の研修を企画・実施し、延べ人数372名(新人125名、スキルアップ122名、復職125名)の参加者があり、満員御礼回が出るほど好評価を得て、盛況裡に終了した。

## ○医科歯科総合病院

令和7年度より入退院支援加算Ⅱ(190点)をⅠ(700点)へ上位の届出変更を行い、235件の支援を行った。地域の医療機関や介護サービス事業者等が連携し、退院後も住み慣れた地域で療養や生活が速やかに行えるよう支援を行った。

健診センターでは、地域企業、市民への定着化と受診者の定期受診に繋がるよう、昨年に引き続き企業担当者との綿密な連絡調整による円滑な受け入れ、健診当日の丁寧な対応を心掛け、満足される対応を実践した結果、令和7年度は3,587件 対前年比120.1%と一般健診の受診者が増加した。

## ○老健施設

地域住民への啓発として、令和6年度に引き続き福岡市よかトレ実践ステーションの認定を継続して、施設内でのかんたん体操を毎月2回(第1及び第3木曜日)実施した。

## 4) 社会連携への取り組み

### (1) 大学連携事業

① 「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」(中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)においては、三大学の特色を生かした教養系共同開講授業科目「食と栄養と健康」を中村学園大学において8月18日、19日の2日間に渡り実施し、本学からは79名の学生が受講した。

② 「西部地区五大学連携懇話会」(九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)においては、引き続き単位互換科目「福博の歴史文化探訪」と五大学共同開講授業科目「博多学」を開講し、本学からは合計35名

の学生が受講した。

③ 訪問歯科センターは、福岡市から委託された小呂島離島診療を継続した。また、福岡県災害時歯科保健医療提供体制整備事業補助金で災害時以外は訪問診療で使用可能な車両及び歯科器具を購入(総額 10,389,505 円)した。

## (2) 地域包括ケアシステムの構築支援

地方自治体、医療・介護・福祉団体及び地域での多職種連携を基盤とした地域包括ケアシステムの構築のため、下記のような支援を行った。

① 福岡市歯科口腔保健推進協議会に、令和6年度に引き続き参加した。また、福岡市が産学官連携により推進する「オーラルケア28(にいはち)プロジェクト」に関連し、福岡市歯科口腔保健推進プロジェクト等検討委員会の一員として、同プロジェクトの成果評価および次期アクションプランの策定に参画した。

② 早良区地域保健福祉課・福岡市歯科医師会早良支部・福岡県歯科衛生士会との学官民連携による早良区高齢者オーラルフレイル予防事業については、早良区の開業医から送られてきた7件の口腔機能検査結果を分析し、早良区歯科医師会オーラルフレイル予防事業委員会に報告した。

## 5) 国際連携の推進

### ○歯科大学

#### (1) 国際交流

コロナ禍で中止していた姉妹校との交流を今年度から再開することとし、各大学との交渉の結果、以下のとおり姉妹校との交流を実施した。なお、姉妹校のうち、中国医科大学については調整ができず、派遣、受け入れとも実施できなかった。

ア) リバプール大学歯学部(イギリス)

5月中旬から約1週間、岡教授、学生6名が同大学を訪問し、相互交流を実施した。

イ) ブリティッシュコロンビア大学歯学部(カナダ)

5月中旬から約1週間、松崎教授、学生6名が同大学歯学部学生交換プログラムに参加した。

ウ) 上海交通大学口腔医学院(中国)

5月中旬から約1週間、都築教授、学生6名が

同大学を訪問し、相互交流を実施した。

また、7月初旬から7日間、刈剣楠教授1名と学生6名が来学し、補綴科、保存科等の病院実習等を行った。

エ) 慶熙大学校歯科大学(韓国)

7月初旬から約1週間、香川教授、学生3名が同大学を訪問し、相互実習を実施した。

オ) 中国医科大学口腔医学院(中国)

本学担当教員によって調整を行ったが、派遣及び受け入れともに実施できなかった。

#### (2) 海外研修派遣

令和元年12月から世界的に流行が始まった「新型コロナウイルス感染症」が5類へ移行したことにより、海外渡航の制限が緩和され、令和7年度は延べ29名の教職員を海外に研修派遣した。また、第1種研修派遣(1年以上1年以内の海外派遣)及び第2種研修派遣(1年以上1年以内の国内派遣)として、それぞれ大学院生1名を派遣した。(別表5)

### ○看護大学

令和7年6月に4年生4名と引率教員1名がリバプール大学に訪問し、リバプール大学の看護学生と初の交流を実施した。また、8月に3、4年生4名と引率教員1名が、12月には教員1名がラオス共和国での海外研修のため、ラオス共和国を訪問した。

### ○短期大学

#### (1) 海外協定校の開拓

現時点では、海外研修先も定着していないため、今後も年度ごとの海外研修先を検討しつつ、国際交流推進委員会にて協定校候補を検討していく。

#### (2) 開発途上国等でのボランティア活動の検討

学長のミャンマー医療支援に、6月は短大教員2名(歯科医師1名、歯科衛生士1名)、12月は短大教員1名(歯科衛生士)と専攻科学生3名が同行し、現地の多数の子供達への医療支援や歯科医療支援(歯科保健指導・歯科健診)を実施した。

## 5. 組織運営及び財務・施設整備

### 1) ガバナンス強化の推進

#### ○法人

##### (1) ガバナンス・コード(第2.0版)の運用

日本私立大学協会が策定した私立大学ガバナンス・コード第2.0版について、第620回理事会(令和7年9月16日開催)にその遵守(実施)状況の点検結果を報告し、ホームページ等で公

表した。

##### (2) 労務コンプライアンスの高度化

令和8年1月より、柔軟な働き方の実現を目指し、学園3大学の教員を対象として専門業務型裁量労働制を導入した。併せて、労務管理のデジタル化を推進するため、勤怠管理システムを導入し、同年4月の本格稼働に向け試行運用を

開始した。

### (3) 情報公開の充実

#### ○看護大学

学長のリーダーシップのもと、教育、研究活動の見える化を目指して成果を提示する発信手段として、年報を発行した。

#### ○短期大学

学長を委員長とする学務・FD委員会の教育改善作業部会において、教育内容の見直しを行い、次年度歯科衛生学科2年次で開講する新科目の講義内容・講師等について検討後、関連会議の承認を得て次年度実施準備を完了した。

## 2) 教員組織・事務組織の再編並びに業務の見直し

### ○法人、各大学、医科歯科総合病院、老健施設

#### (1) 事務の効率化、事務体制の見直し

令和7年11月から8年1月にかけて月1回事務DXお悩み相談会を実施し、各課の業務改善事例を横展開することで、事務局全体の業務プロセスの最適化に努めたほか、配置換及び昇任人事を実施した。

#### (2) 任期制教員の再任

任期満了となる教員（歯科大学：教授5名、准教授1名、講師6名、助教6名）（看護大学：教授5名、講師3名、助教2名）（短期大学：講師1名）の再任について、審議の結果、申請者全員を再任した。

#### (3) 人材育成

能力向上セミナー等の外部主催の研修に事務職員76名が参加したほか、日本私立大学協会九州支部初任者研修会に事務職員2名が参加した。(別表6)

学内では、生産性向上とリスク回避を目的として6月に「初級者向け生成AI利活用研修」を、改正私学法と歯科大学の教育方針等を理解するため11月に「私立学校法の改正、歯科大学の教育方針と教育支援体制に関する研修」を、看護大学の教育に触れるため10月から12月に「看護大学授業参観」を実施した。また、ハラスメント防止対策として、7月に一般職員を対象に「アンガーマネジメント研修」を、11月には管理職を対象とした「セクシャルハラスメント研修」を実施するなど、計画に基づき各種研修を実施し、ポジティブな職場環境の構築に努めた。なお、一部ビデオ受講を可能にし、受講率の向上を図った。(別表7)

また、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「アサーティブコミュニケーション研修」「ビジネスマナー研修」等、他大学と連携した研修に事務職員16名が参加した。(別表8)

#### (4) 役員、顧問、学長、役職教員等の選任

##### ① 理事・監事・評議員、会計監査人の選任

令和7年4月1日に改正私立学校法が施行されたことに伴い、理事・監事・評議員、会計監査人の選任を行った。

理事については、理事選任機関である理事会及び評議員会を開催し、第617回理事会（令和7年6月開催）において1号理事に高橋裕氏、樗木晶子氏、田口智章氏、2号理事に水田祥代氏、海老井悦子氏、江里能成氏、古谷野潔氏を、第187回評議員会（令和7年6月開催）において瓦林達比古氏、宮口巖氏、鳥巢浩幸氏、石橋慶憲氏をそれぞれ選任した。その際、理事会選任の理事については第187回評議員会（令和7年6月開催）において意見聴取を行ったが、特に意見はなかった。

監事については、第188回評議員会（令和7年6月開催）において工藤重之氏、西方和久氏の再任を決定した。

評議員については、第616回理事会（令和7年5月開催）および第187回評議員会（令和7年6月開催）において松添裕晃氏、吉永修氏、中四良氏、朔啓二郎氏、吉住朋晴氏、神田晋爾氏の再任と赤木万喜子氏、岡留朝子氏、菊池仁志氏、稲井哲一朗氏、宮園真美氏、古野みはる氏の新任を決定した。

なお、理事・監事・評議員の任期は令和7年度定時評議員会終結のときから令和10年度定時評議員会終結のときまで。

会計監査人については、第188回評議員会（令和7年6月開催）において菊池武彦氏を選任した。なお、任期については、1年以内に終了する会計年度のうち最終の定時評議員会終結のときまでとし、その定時評議員会で別段の決議がされなかった場合は再任することとした。

##### ② 理事長・常務理事の選任

第618回理事会（令和7年6月開催）において、理事長に水田祥代氏を、常務理事に田口智章氏の再任が決定した。

##### ③ 顧問の選任

第625回理事会（令和8年2月開催）において、令和8年4月1日付けで病院顧問に阿南壽氏を、また、情報顧問（非常勤）に藤村直美氏を再任することを決定した。任期は1年間。

##### ④ 看護大学長の選任

令和8年3月31日付けで任期満了となる看護大学長について、令和8年4月1日付けで樗木晶子氏を再任することを第625回理事会（令和8年2月開催）で決定した。任期は3年間。

##### ⑤ 短期大学長の選任

令和8年3月31日付けで任期満了となる短期大学長について、令和8年4月1日付けで田

口智章氏を再任することを第 625 回理事会（令和 8 年 2 月開催）で決定した。任期は 3 年間。

#### ⑥ 役職教員等の選任

ア) 第 625 回理事会（令和 8 年 2 月開催）において、令和 8 年 4 月 1 日付けで歯科大学図書館長に日高真純氏（分子機能制御学分野・教授）を選任した。任期は残任期間の 1 年間。

イ) 第 625 回理事会（令和 8 年 2 月開催）において、令和 8 年 4 月 1 日付けで副病院長に岡暁子氏（成育小児歯科学分野・教授）〔歯科診療部門等担当〕、古村南夫氏（皮膚科学分野・教授）〔医科診療部門等担当〕、樋口勝規氏（客員教授）〔医療安全・危機管理担当〕、中畑高子氏（客員教授）〔診療支援部門担当〕を選任した。

任期は 2 年間。但し、客員教授は 1 年間。

ウ) 第 802 回常任役員会（令和 8 年 1 月開催）において、令和 8 年 4 月 1 日付けで口腔医学研究センター長に平田雅人氏（客員教授）を再任、また、アニマルセンター副長に吉本尚平氏（病態構造学分野・准教授）を選任することを決定した。任期は 2 年間。但し、客員教授は 1 年間。

エ) 第 624 回理事会（令和 8 年 1 月開催）において、令和 8 年 4 月 1 日付けで短期大学歯科衛生学科長に古野みはる氏（歯科衛生学科・教授）を再任することを決定した。任期は 1 年間。

#### ⑦ 老健施設長の再任

第 803 回常任役員会（令和 8 年 2 月開催）において、令和 8 年 4 月 1 日付けで施設長に岡田賢司氏を再任することを決定した。任期は 1 年間。

### ○看護大学

#### （１）労働環境

保健管理センターと共に合理的配慮も踏まえ、自立した個性を尊重し、差別のない教育環境及び働きやすい教育環境の整備に取り組んだ。また、長時間労働の抑制及び年次有給休暇等の取得促進に取り組み、業務内容、人員、時間を見直し、業務の簡略化・効率化を図った。

#### （２）人員管理

令和 6 年度に引き続き、教員移動や組織改編時、教員を雇用する際には、人件費比率に基づいたポイント制により透明性の高い人員配置を行った。各分野の教育負担に応じたポイント配分は常に見直した。

また、SDGs推進室では、引き続き性差や個性に対応した取り組みの検討を実施し、教員の能力に対応した職務や職責を考慮できる体制を構築した。

その他、配分される研究費を有効に運用するために使用計画や会計報告に関する共通認識を徹底し、管理基盤の透明化を図り、共通経費も作ることができ有効な予算運用が可能とな

った。

電子教材の導入によってペーパーレス化をすすめ、講義資料の膨大な印刷量を減少できるように取り組んだ。

#### （３）人材育成

科研費採択のためのFDは定期的実施しており、アドバイザー制度を継続し、科研申請者の支援を行い、令和 7 年度は、27 人の教員が応募して 6 人（22.2%）が科研費を獲得した。

### ○短期大学

#### （１）労働環境の整備・改善

週 1 回ペースで全教員が参加する教員会を開催し、種々の情報共有を行いつつ、学生同様に専門資格（公認心理師、精神保健福祉士）を有する教員が悩みを持つ教員の相談に対応する等、労働環境の整備・改善に努めた。

#### （２）組織力を高めるための人材育成

体系的なFD・SD計画に基づき、今年度は学内 3 件、学園開催 10 件のFD・SDの各対象者に積極的参加を促し、優秀な人材育成に努めた。

### ○医科歯科総合病院

病院の各部門の診療業務効率化のため以下の委員会の実務マニュアルの変更を行った。

- ・身体拘束最小化チーム
- ・臨床倫理委員会
- ・医療安全管理委員会
- ・病診連携運営委員会
- ・病棟運営委員会
- ・薬事委員会
- ・褥瘡対策委員会
- ・外来化学療法委員会
- ・診療録記載管理委員会

### ○老健施設

5 月以降はコンサルタント会社とメール及び FAX での問合せのみとするサポート会員としての契約を継続中であり、稼働アップ及び業務改善プロジェクト会議の内容を運営委員会で引き続き協議し、入所者・通所利用者増及び収支改善を図った。

### 3) 第三者評価の受審

#### ○歯科大学

アセスメントプランの作成及び担当委員会における検証を実施し、自己点検・評価委員会で点検・評価を実施した。

また、内部質保証にかかるPDCAサイクルの一環として大学基準協会の評価項目に則って点検・評価を実施し作成した「福岡歯科大学の現状と課題'23」における長所と問題点について、

2024年度に実施した対応・改善及び発展方策を取りまとめた「福岡歯科大学の現状と課題‘24改善報告書」を作成し、ホームページで学内外に公開した。

その他、令和8年度に受審を予定している大学基準協会による歯学教育分野別評価に向け、自己点検・評価委員会において点検・評価報告書を作成し、委員会内での確認・調整を経て、大学基準協会へ提出した。

## ○看護大学

「福岡看護大学の現状と課題‘23」における自己点検・評価の結果に基づき、令和6年度に実施した改善等について、「福岡看護大学の現状と課題‘24改善報告書」を作成し、ホームページ上で公開した。

また、2024年度の活動に対する外部評価委員会による点検・評価を受け、前年度評価に基づく改善の取り組みが着実に成果を上げていることが確認された。

## ○短期大学

### (1) 認証評価結果を踏まえた内部質保証の推進

各委員会が各々に関係する内容に関して事業計画達成目標の達成に向けて役割を遂行し、概ね達成することができた。

### (2) 2028年度(令和10年度)認証評価受審

次年度作成予定の「現状と課題2024-2025」の作成に向けての準備を完了した。

## ○医科歯科総合病院

令和7年9月の特定共同指導受審に向けて、特定共同指導準備委員会を立ち上げ、全体講習会、外部模擬受審、院内模擬受審、各科模擬受審等、計画的に準備を行った。並行して診療録の記載に関する診療記録記載管理委員会と保険診療に関する保険審査委員会が共同で電子カルテの記載とそれに伴う保健請求の再確認を病院全体で取り組んだが、再指導となった。厚生労働省からの指摘事項(82項目)に対し、特定共同指導準備委員会で協議を重ね、院内の運用を変更するなどし、改善報告書を提出した。

再指導に向けて診療現場での適切な診療録の記載と受審に向けての準備を任務とするプロジェクトチームを設置した。

## 4) 財政基盤の安定化

### (1) 収支改善

#### ① 福岡歯科大学

奨学寄付金 17 件 (15,737 千円)、受託研究

費 8 件 (69,482 千円) を受け入れた。

#### ② 福岡看護大学

配分される研究費を有効に運用するために使用計画や会計報告に関する共通認識を徹底し、管理基盤の透明化を図った。また、昨年度に引き続き、本格的に電子教科書及び電子教材配付を導入した学年の進行に伴い、配付教材のペーパーレス化によって印刷量を減少させることができた。

また、受託研究費 3 件 (4,550 千円) を受け入れた。

#### ③ 福岡医療短期大学

オープンキャンパス参加後フォローアップの強化、ホームページやSNSの活用等学生募集活動の充実を図り、令和8年度は歯科衛生学科 87 名、専攻科 22 名の入学者を確保し、7 年度に続き入学定員充足となった。

#### ④ 医科歯科総合病院

病院は、施設基準の要件を精査、対応策を検討し、準備が整った事項から届出を行った。後発医薬品使用体制加算 1 の届出要件を達成し施設基準を届け出たことで、先発品、後発品のいずれも処方できる体制を整えた。これにより医薬品不足が続く中でも薬による治療が滞りなく行えるようになった。

医事業務委託者の業務の状況を把握し、委託事業者の責任者と改善案を協議し、医事業務の質及び患者サービスの向上を図った。

また、奨学寄付金 1 件 (2,509 千円)、治験研究費 1 件 (2,441 千円) を受け入れた。

#### ⑤ 介護老人保健施設

5 月以降はコンサルタント会社とメール及び FAX での問合せのみとするサポート会員としての契約を継続し、稼働アップ及び業務改善プロジェクト会議の内容を運営委員会で引き続き協議した。施設類型を加算型で継続しながら入所者増を目指す方針とし、収支改善に努めた結果、令和 7 年度入所 1 日平均は 51.4 人 (令和 6 年度 : 50.7 人) で、3 月の月平均入所者が目標値である 60 名を超過して 62 名に達した。

### (2) 寄付金の受入れ

学園ホームページの寄付金募集サイトのリニューアル及び学園広報誌 New Sophia (2026 年 1 月号) への募集案内チラシの同封を行い、個人等の寄付金は 40 件で 1,027 千円となった。

個人等寄付内訳(寄付目的別)は表 11 のとおり。

表 11 個人等寄付内訳（寄付目的別）（単位：千円）

区分	歯科大	看護大	短大	病院	計
教育研究活動振興	522	16	60	0	598
教育研究環境整備	29	0	0	0	29
田中健蔵基金	100	0	0	0	100
その他	0	0	0	300	300
計	651	16	60	300	1,027

この他、外郭団体の福岡歯科大学学生共済会から 25,798 千円【修学支援事業(特待生・SA)：16,537 千円、学生研修派遣事業：8,267 千円、学生研修センター維持整備事業等：994 千円】の寄付があった。

## 5) 新キャンパス整備計画の促進

### ○法人

#### (1) 新キャンパス整備計画

第 563 回理事会及び第 173 回評議員会(令和 3 年 5 月開催)の議を経て、校舎・施設・設備の刷新と教育・研究機能の向上を目的として「本館」、「体育館」、「アニマルセンター」等を順次新築するキャンパスの整備計画については、1 期工事である新本館建設(歯科大学及び短期大学の校舎として共用)は、令和 7 年 7 月に竣工し、8 月に引越を実施して移転を完了させた。引き続き旧本館解体工事を開始し、3 月末現在おおよそ 28.5%の進捗状況となっている。また、2 期工事である新体育館及びアニマルセンター建設に関しても設計打合せ、関係者からのヒアリング等を適時実施したほか、土壌汚染対策や埋蔵文化財調査も遅滞なく実施した。

#### (2) 既存施設・設備の改修・更新

##### ① 老健小荷物専用昇降機改修

設置後 20 年を超え部品等のメーカー保守期間が終了することから、主要部品の取替工事を行い、引き続き使用できるよう改修工事を行った。

##### ② 看護大学大学院移設に伴う空調設備等設置

看護大学大学院を旧病院棟から看護大学更衣室棟へ移設することに伴い、空調設備等を整備する工事を行った。

##### ③ 病院無停電電源装置等更新

病院各所に設置されている機械設備内蔵の UPS 及びバッテリーが更新時期を迎えたため、取替工事を行った。

##### ④ 研修センター屋根・外壁改修

設置後 35 年を超え外壁タイルや屋根防水に傷みが生じていたため、改修工事を行った。

##### ⑤ 老健照明設備更新

2027 年末を期限に、すべての一般照明用蛍光灯の製造・輸出入が禁止されるため、LED へ

の更新工事を行った。

## 6) その他

### (1) 福岡歯科大学・福岡医療短期大学新本館完成記念式典等の実施

令和 7 年 7 月 27 日に新本館完成記念式典、内覧会、祝賀会を開催し、来賓、教職員併せて 226 名の参加者があり、盛会裏に終えた。

### (2) 福岡学園開学記念式典の実施

学園の開学記念式典を 7 月 28 日に実施し、永年勤続表彰及び特待生表彰等を行い、学内外から約 176 名の参加者があった。

### (3) 歯科大学名誉教授称号授与

教育上又は学術上特に功績があった者に付与される名誉教授の称号について、坂上竜資氏、大星博明氏が推薦され、第 617 回理事会(令和 7 年 6 月開催)で決定し、令和 7 年 7 月 28 日の開学記念式典で授与された。

### (4) 学園全体での防災訓練の実施

10 月 27 日に教職員 108 名が参加して、学園全地区隊を対象とした防災訓練(避難訓練・消火訓練・AED 使用方法等の講習)を実施した。

なお、今年度は新本館が竣工したことから、新本館における避難経路、防火区画、消防設備を中心に講習を行うとともに、屋内消火栓の実射訓練も実施した。

### (5) エネルギー使用量の削減

エネルギー使用量は、新本館への引越しにより、一時的に新旧両方の校舎を使用していたこともあり夏季に増加したが、新本館に導入された空調システムにより、電気は増加したがガスが大幅に減少し、原油換算での比較では 11 月頃より減少傾向となった(前年度比電気 4.8%増、ガス 6.2%減、原油換算 1.9%増)。料金は、国の補助金(7 月～9 月、1 月～3 月)により減額されたが、使用量の増加により電気は 8.7%増加した。ガスは 11 月からの使用量減少により 10.4%減少した。電気とガスの合計では 3.4%増となった。

省エネに関しては、エネルギー管理委員会を毎月開催し、エネルギーの使用状況の把握に努めるとともに、新本館空調システムの運用方法の把握、老健照明設備更新等の省エネ対策を実施した。

### (6) 化学物質等にかかるリスクアセスメント実施及び注意喚起

令和 7 年度の新規リスクアセスメント対象物質について評価を実施し、結果が健康被害のリスクが高い「レベルⅢ」以上となったものについては、リスクを「レベルⅡ」以下(健康被害の影響が少ないレベル)に抑えるよう実験方

法の再検討を依頼するとともに、関係者へ注意喚起を行った。

#### **(7) 情報化組織及び管理体制の整備・充実**

新本館において学内LANの幹線を10Gbpsに対応させるとともに、新たに6GHz帯をカバーするWi-Fi6Eで学内LANサービスを開始した。

安全・安心な学内LANを維持するため、保守期限を迎える内部ネットワーク不審通信検知については専用機器の更新を行わず、既存のファイアウォールを活用したネットワーク設計変更とファイアウォールに備わるセキュリティ監視機能を利用することで継続的な不審通信の検知体制を確保した。

#### **(8) 文部科学省による「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を踏まえた体制整備等の状況に関する実態調査実施**

10月1日に文部科学省による「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を踏まえた体制整備等の状況に関する実態調査が実施され、文部科学省研究公正推進室から2名来学され、本学の研究不正を防止する体制の整備状況について調査を受けたが、特に問題ないとの結果となった。

#### **(9) 福岡医療短期大学介護福祉士実務者学校の閉講について**

地域社会における地域福祉の担い手として貢献し得る人材を養成することを目的とし、平成29年に開講したが、近年は受講者が無く、今後も受講者が増加する見込みもないため、令和7年度末をもって閉講となった。

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 決算の概要

##### 1) 貸借対照表関係

###### (1) 貸借対照表の状況と経年比較

令和7年度の資産の部では、有形固定資産は本館建設工事に係る資産の取得などにより37億89百万円の増、特定資産は病院・記念講堂・本館建設工事に係る借入金の返済に伴い、引当特定資産を取崩したことにより10億78百万円の減、その他の固定資産は本館建設工事費の支払に充当する有価証券を取り崩したことなどにより、61億11百万円の減となった。負債の部では、固定負債は病院・記念講堂・本館建設資金の借入金の返済により10億77百万円の減、流動負債は新たに賞与引当金を計上したことにより3億36百万円の増となった。純資産の部では、基本金に本館建設工事に係る自己資金支払額及び病院・記念講堂・本館建設工事に係る借入金返済額などを組入れたことにより、繰越収支差額が79億55百万円の減となった。

(単位:千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	66,483,485	64,760,654	64,103,092	68,015,635	64,615,365
流動資産	1,983,074	1,800,517	2,298,601	2,329,713	2,125,066
資産の部合計	68,466,559	66,561,171	66,401,693	70,345,348	66,740,431
固定負債	8,151,459	7,259,787	7,694,790	12,632,609	11,556,055
流動負債	2,106,189	1,858,538	2,247,672	2,186,593	2,522,972
負債の部合計	10,257,648	9,118,325	9,942,462	14,819,202	14,079,027
基本金	59,161,488	60,692,306	53,327,008	54,497,263	59,587,597
繰越収支差額	△952,577	△3,249,460	3,132,223	1,028,883	△6,926,193
純資産の部合計	58,208,911	57,442,846	56,459,231	55,526,146	52,661,404
負債及び純資産の部合計	68,466,559	66,561,171	66,401,693	70,345,348	66,740,431

###### (2) 財務比率の経年比較

比率名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運用資産余裕比率	466.9%	441.1%	425.3%	343.7%	238.1%
流動比率	94.2%	96.9%	102.3%	106.5%	84.2%
総負債比率	15.0%	13.7%	15.0%	21.1%	21.1%
前受金保有率	289.8%	261.4%	315.8%	314.9%	206.8%
基本金比率	88.4%	90.0%	87.9%	81.8%	84.3%
積立率	99.9%	94.7%	112.5%	106.4%	86.5%

##### 2) 事業活動収支計算書関係

###### (1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

令和7年度決算における事業活動収入は75億65百万円、事業活動支出は104億30百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は△28億65百万円となった。この額から基本金組入額合計51億16百万円を差し引いた当年度収支差額は△79億81百万円となり、これに前年度繰越収支差額10億29百万円と基本金取崩額26百万円を加えた翌年度繰越収支差額は△69億26百万円となった。

(単位:千円)

科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,273,855	3,205,255	3,143,983	3,209,414	3,115,985
	手数料	30,120	26,288	27,995	27,226	29,984
	寄付金	120,946	99,458	100,930	145,917	59,699
	経常費等補助金	466,154	446,044	515,446	555,309	696,224
	付随事業収入	530,367	417,593	371,625	413,294	443,919
	医療収入	2,425,577	2,425,051	2,336,650	2,491,828	2,402,069
	雑収入	244,055	196,430	162,575	328,858	260,413
	教育活動収入計	7,091,074	6,816,119	6,659,204	7,171,846	7,008,293
	事業活動支出の部					
	人件費	4,396,192	4,368,170	4,478,667	4,649,105	4,578,267
	教育研究経費	2,945,657	3,184,925	3,245,351	3,237,652	4,069,745
	管理経費	497,287	637,735	549,311	576,442	769,657
	徴収不能額等	4,334	6,911	2,177	3,657	1,186
教育活動支出計	7,843,470	8,197,741	8,275,506	8,466,856	9,418,855	
教育活動収支差額	△ 752,396	△ 1,381,622	△ 1,616,302	△ 1,295,010	△ 2,410,562	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	556,376	534,288	512,638	433,029	441,437
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	556,376	534,288	512,638	433,029	441,437
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	18,521	22,733	19,779	25,648	143,011
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	18,521	22,733	19,779	25,648	143,011
教育活動外収支差額	537,855	511,555	492,859	407,381	298,426	
経常収支差額	△ 214,541	△ 870,067	△ 1,123,443	△ 887,629	△ 2,112,136	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	1	0	367,243	0	0
	その他の特別収入	74,793	247,987	29,100	15,021	115,469
	特別収入計	74,794	247,987	396,343	15,021	115,469
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	20,055	143,984	256,185	59,385	478,507
	その他の特別支出	74	1	330	1,092	389,569
	特別支出計	20,129	143,985	256,515	60,477	868,076
特別収支差額	54,665	104,002	139,828	△ 45,456	△ 752,607	
基本金組入前当年度収支差額	△ 159,876	△ 766,065	△ 983,615	△ 933,085	△ 2,864,743	
基本金組入額合計	△ 990,967	△ 1,794,016	△ 843,820	△ 1,171,649	△ 5,116,303	
当年度収支差額	△ 1,150,843	△ 2,560,081	△ 1,827,435	△ 2,104,734	△ 7,981,046	
前年度繰越収支差額	197,596	△ 952,577	△ 3,249,460	3,132,223	1,028,883	
基本金取崩額	670	263,198	8,209,118	1,394	25,970	
翌年度繰越収支差額	△ 952,577	△ 3,249,460	3,132,223	1,028,883	△ 6,926,193	
(参考)						
事業活動収入計	7,722,244	7,598,394	7,568,185	7,619,896	7,565,199	
事業活動支出計	7,882,120	8,364,459	8,551,800	8,552,981	10,429,942	

## (2) 財務比率の経年比較

比率名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	57.5%	59.4%	62.4%	61.1%	61.5%
教育研究経費比率	38.5%	43.3%	45.3%	42.6%	54.6%
管理経費比率	6.5%	8.7%	7.7%	7.6%	10.3%
事業活動収支差額比率	-2.1%	-10.1%	-13.0%	-12.2%	-37.9%
学生生徒等納付金比率	42.8%	43.6%	43.8%	42.2%	41.8%
経常収支差額比率	-2.8%	-11.8%	-15.7%	-11.7%	-28.4%

## 3) 資金収支計算書関係

### (1) 資金収支計算書の状況と経年比較

令和7年度決算における主な収入としては、学生生徒等納付金収入は福岡歯科大学の在籍学生数の減により、前年度比93百万円減の31億16百万円、補助金収入は施設高度化推進事業費補助金及び授業料等減免費補助金の増により、前年度比2億41百万円増の7億96百万円、医療収入は歯科収入及び医科収入の減収により、前年度比89百万円減の24億2百万円となった。一方、主な支出では、施設関係支出は本館建設工事の竣工払など、前年度比15億97百万円減の44億14百万円、設備関係支出は本館講義室家具什器等購入費及び実習室整備費など、前年度比8億22百万円増の9億47百万円となった。

(単位:千円)

収入の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金収入	3,273,855	3,205,255	3,143,983	3,209,414	3,115,985
手数料収入	30,120	26,288	27,995	27,226	29,984
寄付金収入	98,091	96,194	85,908	129,857	45,998
補助金収入	524,117	626,138	516,526	555,309	796,271
資産売却収入	357,451	732,232	5,329,506	128,649	6,068,830
付随事業・収益事業収入	530,367	417,593	371,625	413,294	443,919
医療収入	2,425,577	2,425,051	2,336,650	2,491,828	2,402,069
受取利息・配当金収入	556,376	534,288	512,638	433,029	441,437
雑収入	241,720	190,514	167,385	314,969	212,355
借入金等収入	2,300,000	0	1,500,000	6,000,000	0
前受金収入	455,546	460,598	554,884	503,546	585,721
その他の収入	4,454,016	2,763,240	10,492,861	1,673,695	1,749,208
資金収入調整勘定	△ 1,024,703	△ 978,330	△ 913,696	△ 1,121,437	△ 1,155,735
前年度繰越支払資金	1,405,326	1,320,274	1,203,838	1,752,238	1,647,697
収入の部合計	15,627,859	11,819,335	25,330,103	16,511,617	16,383,739

支出の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	4,375,793	4,308,655	4,438,164	4,604,523	4,588,034
教育研究経費支出	1,956,038	2,134,677	2,209,237	2,236,364	2,892,456
管理経費支出	425,203	540,898	440,579	468,146	562,182
借入金等利息支出	18,521	22,733	19,779	25,648	143,011
借入金等返済支出	715,020	945,024	897,522	1,142,526	1,095,024
施設関係支出	2,605,774	681,463	1,512,680	6,011,029	4,413,961
設備関係支出	172,691	369,911	122,205	124,726	946,572
資産運用支出	4,133,700	1,332,232	13,996,357	223,063	251,814
その他の支出	492,797	642,378	374,773	483,033	669,858
資金支出調整勘定	△ 587,952	△ 362,474	△ 433,431	△ 455,138	△ 390,681
翌年度繰越支払資金	1,320,274	1,203,838	1,752,238	1,647,697	1,211,508
支出の部合計	15,627,859	11,819,335	25,330,103	16,511,617	16,383,739

## (2) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

令和7年度決算における施設整備等活動資金収支差額は、本館建設工事の竣工払などがあつたが、前年度比6億42百万円増の△44億29百万円、その他の活動資金収支差額は、本館建設工事費の支払に充当する有価証券売却収入などにより、前年度比2億円減の50億62百万円となった。

(単位:千円)

科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	7,059,844	6,789,281	6,632,751	7,138,063	6,944,244
教育活動資金支出計	6,756,961	6,984,230	7,087,649	7,307,941	8,042,556
差引	302,883	△194,949	△454,898	△169,878	△1,098,312
調整勘定等	62,620	△96,532	138,973	△126,393	28,663
教育活動資金収支差額	365,503	△291,481	△315,925	△296,271	△1,069,649
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	875,844	1,742,475	8,955,896	1,098,249	1,196,773
施設整備等活動資金支出計	3,595,744	1,651,374	1,634,885	6,135,755	5,360,533
差引	△2,719,900	91,101	7,321,011	△5,037,506	△4,163,760
調整勘定等	46,987	△111,940	83,277	△33,193	△265,032
施設整備等活動資金収支差額	△2,672,913	△20,839	7,404,288	△5,070,699	△4,428,792
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△2,307,410	△312,320	7,088,363	△5,366,970	△5,498,441
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	6,293,420	1,910,676	8,395,454	6,689,952	6,565,443
その他の活動資金支出計	4,070,495	1,714,540	14,935,988	1,426,730	1,503,316
差引	2,222,925	196,136	△6,540,534	5,263,222	5,062,127
調整勘定等	△567	△252	571	△793	124
その他の活動資金収支差額	2,222,358	195,884	△6,539,963	5,262,429	5,062,251
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△85,052	△116,436	548,400	△104,541	△436,190
前年度繰越支払資金	1,405,326	1,320,274	1,203,838	1,752,238	1,647,697
翌年度繰越支払資金	1,320,274	1,203,838	1,752,238	1,647,697	1,211,507

## (3) 財務比率の経年比較

比率名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支差額比率	5.2%	-4.3%	-4.8%	-4.2%	-15.4%

## 2. その他

### 1) 資産運用の状況

資産運用の状況は以下のとおりである。

(単位:円)

種 類	当年度 (令和8年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	32,656,177,000	29,447,224,000	△ 3,208,953,000
株式	0	0	0
投資信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	32,656,177,000	29,447,224,000	△ 3,208,953,000
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	32,656,177,000		

### 2) 学校債の状況

なし

### 3) 寄付金の状況

寄付金の状況は以下のとおりである。

(単位:円)

科 目	金 額
特別寄付金	45,449,768
一般寄付金	548,439
合 計	45,998,207

### 4) 補助金の状況

補助金の状況は以下のとおりである。

(単位:円)

科 目	金 額
私立大学等経常費補助金	337,023,000
私立学校施設高度化推進事業費補助金	87,657,000
授業料等減免費補助金	206,450,200
学術研究振興資金	3,200,000
臨床研修費等補助金	55,808,000
県その他補助金	106,132,273
合 計	796,270,473

### 5) 収益事業の状況

なし

### 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和7年度決算における主な収入では、学生生徒等納付金は福岡歯科大学の在籍学生数の減により、前年度比93百万円減の31億16百万円、補助金は施設高度化推進事業費補助金及び授業料等減免費補助金の増により、前年度比2億41百万円増の7億96百万円、医療収入は歯科収入及び医科収入の減収により、前年度比89百万円減の24億2百万円となり、経常収入（教育活動収入・教育活動外収入）は74億50百万円となった。一方、主な支出では、教育研究経費は本館建設に係る経費及び減価償却額の増などにより、前年度比8億32百万円増の40億70百万円となり、経常支出（教育活動支出・教育活動外支出）は95億62百万円となった。以上の結果、学校法人の経常的な収支バランス（教育活動収支・教育活動外収支）を示す経常収支差額は△21億12百万円となった。

主な財務比率では、人件費比率61.5%、教育研究経費比率54.6%、管理経費比率10.3%、経常収支差額比率△28.4%となった。

また、令和7年度の総資産は667億40百万円となり、教育研究の充実を目的として第3号基本金引当特定資産に237億22百万円、減価償却資産の取替資金として減価償却引当特定資産に49億21百万円など各種引当特定資産の積立を行っており、財政基盤の強化を図っている。

今後、収入面では、入学定員充足による安定した学生納付金の確保、補助金・寄付金等の外部資金の積極的な導入、医科歯科総合病院における医療収入の増収など財源の確保に努める。一方、支出面では、人件費については、人事計画に基づく人員配置及び人事考課制度の活用等により適正化を図り、その他の経常的な経費については、予算の効果的な執行及び不要不急の支出の抑制を図る。

本学園は、教育研究環境の向上及び将来的な施設、設備等の更新に伴う財源確保のため、一層の財政状況の改善を図り、永続的な維持・発展に向けて、安定した財政基盤の確立を目指す。

## IV. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

### （１）関係する決議の概要

以下の体制を内容とする「学校法人福岡学園内部統制システム整備の基本方針」を第613回理事会（令和7年3月17日開催）において決議した。

#### ○基本方針の主な内容

- 1) 経営に関する管理体制
- 2) 危機管理に関する体制
- 3) コンプライアンスに関する管理体制
- 4) 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

### （２）体制整備及び運用状況の概要

#### 1) 経営に関する管理体制

①理事の職務の執行については、寄附行為及び理事会並びに常任役員会決定に基づき、業務運営を適切かつ効率的に推進している。また、学園3大学の学務について理事会、常任役員会等で情報共有し効率化を図っている。

②理事会、評議員会並びに常任役員会等の重要会議の議事録等については、寄附行為及び「文書処理規程」等に基づき、適切に作成、保存及び管理を行った。

#### 2) 危機管理に関する体制

①研究活動における不正行為への対応等に関する体制

文部科学省による「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を踏まえた体制整備等の状況に関する実態調査の際に受けた助言を踏まえ、3大学の「研究活動における不正行為への対応等に関する規則」（令和7年10月28日施行）を改正した。

②研究データの保存及び管理体制

内部監査室は福岡歯科大学及び福岡看護大学における研究データの保存及び管理状況について監査を実施した。

③公的研究費に係る不正防止体制

「公的研究費における不正防止計画」に係る教育及び啓発計画に則り、不正防止啓発活動等（大学院講義、科研費執行要領等説明会、研究不正ポスターの掲示等）を実施した。内部監査室は令和7年6月19日に実施された科学研究費執行要領等説明会に参加し、モニタリングを実施し、特に問題はなかった。

また、「公的研究費における不正防止計画」のうち研究費の適正な運営・管理活動に係る不正防止計画について、内部監査室は購入物品の現物確認等について内部監査を実施した。

さらに監事及び内部監査室からの助言を踏まえ、3大学の「公的研究費における不正防

止計画」を改正した。

④防火・防災管理体制

新本館完成に伴い、福岡学園災害対策本部の編成等の変更を目的として「学校法人福岡学園防火・防災管理規程」（令和7年11月18日施行）を改正したほか、学園防災訓練等を実施した。内部監査室は「学校法人福岡学園防火・防災管理規程」の改正内容（災害対策本部編成表、自衛消防隊編成表等）について確認するとともに、令和7年10月27日に新本館における防災訓練に参加し、モニタリングを実施し、特に問題はなかった。

⑤特定個人情報の取り扱い体制

研修歯科医等の保険医登録申請手続きの際にマイナンバーを取り扱う必要があるため、「学校法人福岡学園 特定個人情報の適正な取り扱いに関する規程」（令和8年2月17日施行、令和8年4月1日適用）を改正した。

⑥3大学の教務システムの管理運用体制

内部監査室は3大学の教務システムの管理運用状況について監査し、学生個人情報の管理、セキュリティ対策等について確認した。

⑦セキュリティを考慮した学内LANの維持管理体制

安全・安心な学内LANを維持するため、保守期限が切れる内部ネットワーク不審通信検知について、機器更新を行わず、既存のFireWallを活用したネットワーク設計変更とFireWallのセキュリティ監視機能の利用で実現した。

⑧サンシャインシティの感染防止体制

サンシャインシティは厚生労働省の「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」を基に、施設の感染対策マニュアルを改定した。

⑨感染症対応体制

COVID-19感染対策会議において、福岡県内を中心とした感染症の発生动向を継続的に確認するとともに、感染症が流行した際には施設間で連携し、感染症の早期終息に向けた対応を行うことを確認した。

#### 3) コンプライアンスに関する管理体制

①コンプライアンス教育等の実施

「公的研究費における不正防止計画」に係る教育及び啓発計画に則り、コンプライアンス教育等（コンプライアンス教育研修会、研究倫理FD講演会等）を実施した。

②ハラスメント防止体制

「ハラスメント防止規則」に則り、ハラスメント相談員及びハラスメント相談窓口を

設置し、ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対応した。

また、ハラスメントの防止を目的とした研修を令和7年7月3日に管理職以外の教職員を対象に、令和7年11月27日に管理職を対象にそれぞれ実施したほか、教職員に「ハラスメントのないキャンパスづくり」と題したリーフレットを配布し、ハラスメントの防止を啓発した。

#### ③私立学校法改正に関するSDの実施

私立学校法に関する理解を深めること等を目的として改正私立学校法の概要及び本学園の対応についてSDを実施した。

#### ④公益通報に関する対応

「学校法人福岡学園公益通報に関する規程」に基づき、公益通報及び相談に対応する為、公益通報受付・相談窓口を3大学のホームページに公表している。

#### 4) 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

決議された「内部統制システム整備の基本方針」に基づき、「学校法人福岡学園監事監査規則」（令和7年7月22日施行、令和7年7月1日適用）を改正した。

## 別表1 2025年研究業績(欧文)一覧

[福岡歯科大学]

### 1.総説(review含む)

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Lipofibromatosis revisited.	Shinohara Y, Nishio J, Nakayama S, Aoki M	In Vivo	39	5	2512-2516	2025	10.21873/invivo.14054
2	Superficial angiomyxoma revisited.	Shinohara Y, Chijiwa Y, Nishio J	In Vivo	39	5	2505-2511	2025	10.21873/invivo.14053
3	Bizarre parosteal osteochondromatous proliferation revisited.	Nishio J, Shinohara Y, Nakayama S, Koga M, Aoki M, Koga T	In Vivo	39	4	1799-1809	2025	10.21873/invivo.13981
4	Fibroma of tendon sheath revisited.	Shinohara Y, Nishio J, Nakayama S, Koga M, Aoki M, Koga T	In Vivo	39	2	613-620	2025	10.21873/invivo.13866

### 2.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Evaluation of an interprofessional oral healthcare and nursing care programme for dental and nursing students.	Haresaku S, Naito T, Aoki H, Miyazono M, Monji M, Umezaki Y, Uchida S, Iwamoto R, Nakashima F, Masuzaki T, Yamanaka T, Akinaga K, Chishaki A	European Journal of Dental Education	-	-	-	2025	10.1111/eje.70054
2	Prevalence of the anti-CASPR2 autoantibody in patients with somatic symptom disorder accompanied by medically unexplained pain.	Katayama S, Nayanar G, Suga T, Watanabe M, Takao C, Umezaki Y, Takahashi H, Toyofuku A, Shiwaku H	Brain, Behavior, & Immunity - Health	47	-	101036	2025	10.1016/j.bbih.2025.101036
3	Recombinant human fibroblast growth factor-2 promotes surgical-wound healing in the rat gingiva.	Yoshinaga Y, Maruo N, Ohgi K, Yamato H, Tsuchimochi N, Nakagami M, Sakagami R	Journal of Dental Sciences	20	4	2407-2415	2025	10.1016/j.jds.2025.03.031
4	Comparing COVID-19 literacy and vaccine hesitancy among health care workers, including oral health professionals, in Japan.	Ueno F, Haresaku S, Iino H, Taguchi T, Sakagami R, Matsumoto K, Kudo K, Yoneda M, Chishaki A, Okada K	BDJ Open	11	1	-	2025	10.1038/s41405-024-00282-9
5	Shear bond strength of ultraviolet-polymerized resin to 3D-printed denture materials: Effects of post-polymerization, surface treatments, and thermocycling.	Tanaka A, Kawaguchi T, Ito A, Isshi K, Hamanaka I, Tsuzuki T	Journal of Prosthodontic Research	69	1	21-29	2025	10.2186/jpr.JP_R_D_23_00321
6	Students' opinions of a predoctoral implant training program —comparison between 2009 and 2024 survey results.	Kakura K, Taniguchi Y, Yanagi T, Matsumoto A, Egashira K, Negoro K, Uchida R, Kido H	Journal of Interdisciplinary Clinical Dentistry	6	1	e003	2025	10.1002/j.0022-0337.2009.73.11.tb04819.x
7	Basement membrane of Hertwig's epithelial root sheath is involved in dental follicle cell differentiation into cementoblasts.	Shindo Y, Ikezaki S, Iwayama T, Otsu K, Kido Y, Kakura K, Kido H, Harada H	Stem Cells and Development	35	1-2	-	2025	10.1177/15473287251400301
8	Altered expression of tenascin C in pericoronal tissues by odontogenic epithelial cells during tooth eruption.	Suyama K, Yoshimoto S, Taguchi M, Sumi S, Kumagai T, Ogata K, Kurihara S, Kuba Y, Oka K	Journal of Oral Biosciences	67	4	100698	2025	10.1016/j.job.2025.100698
9	Tenascin-C expression in relation to tumor-stroma interaction in ameloblastoma.	Sumi S, Yoshimoto S, Suyama K, Taguchi M, Morita H, Hiraki A, Oka K	Laboratory Investigation	105	11	104237	2025	10.1016/j.labinv.2025.104237
10	Visual complexity of dental intake forms and its association with dental treatment outcomes: A retrospective cohort study.	Umezaki Y, Sudo T, Motomura H, Morita H, Naito T	Plos One	20	9	e0331615	2025	10.1371/journal.pone.0331615

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
11	The abnormal expression of tubular SGLT2 and GULT2 in diabetes model mice with malocclusion-induced hyperglycemia.	Kajiwara K, Tamaoki S, Sawa Y	Biomedicines	13	2	267	2025	10.3390/biomedicines13020267
12	Study of podoplanin-deficient mouse bone with mechanical stress.	Kanai T, Osawa K, Kajiwara K, Sato Y, Sawa Y	Dentistry Journal	13	2	61	2025	10.3390/dj13020061
13	Exacerbation of diabetes due to F. Nucleatum LPS-induced SGLT2 overexpression in the renal proximal tubular epithelial cells.	Seki A, Kajiwara K, Teramachi J, Egusa M, Miyawaki T, Sawa Y	BMC Nephrology	26	1	38	2025	10.1186/s12882-025-03965-z
14	Osteopontin derived from tumor-associated macrophages modulates radiosensitivity of oral squamous cell carcinoma via reactive oxygen species production.	Nakashima H, Yamana K, Yoshida R, Matsuoka Y, Arita H, Gohara S, Hirayama M, Kawahara K, Hirose A, Kuwahara Y, Wakayama T, Nakayama H	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	37	6	1186-1195	2025	10.1016/j.ajoms.2025.05.008
15	Computed tomographic analysis of mandibular tori and their relationship to remaining teeth.	Shibaguchi K, Morinaga K, Magori Y, Kagawa T, Matsuura T	Diagnostics	15	4	414	2025	10.3390/diagnostics15040414
16	Hot spring and sauna use for improving blood lipid profiles: A systematic review and expert consensus on efficacy and recommendations.	Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T	Complementary Therapies in Medicine	94	-	103241	2025	10.1016/j.ctim.2025.103241
17	Social independence and lifestyles in patients with repaired tetralogy of fallot—secondary publication.	Shinbara R, Sawatari H, Yamasaki K, Kang M, Sakamoto I, Yamamura K, Nagata H, Tsutsui H, Chishaki H, Tokunou T, Chishaki A	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	9	1	10-22	2025	10.24509/jpccs.24-002
18	Associations between multimorbidity and the risks of cardiovascular disease events and all-cause mortality in patients with chronic kidney disease.	Okamura K, Tanaka S, Kitamura H, Suenaga T, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T	American Journal of Nephrology	56	5	605-617	2025	10.1159/000544722
19	Associations of causes of chronic kidney disease with disease progression and mortality: Insights from the Fukuoka kidney disease registry study.	Kitamura H, Tanaka S, Hiyamuta H, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T	American Journal of Nephrology	56	3	366-376	2025	10.1159/000543201
20	Clinical outcomes following acute Ischaemic stroke in patients with comorbid cancer.	Sato N, Kiyuna F, Wakisaka K, Ohya Y, Ueki K, Yoshimura S, Nakamura K, Hata J, Wakisaka Y, Ago T, Kamouchi M, Kitazono T, Matsuo R	Cerebrovascular Diseases	54	6	885-893	2025	10.1159/000544700
21	Strain elastography for detecting advanced fontan-associated liver disease: A retrospective study.	Imoto K, Goya T, Azuma Y, Hioki T, Aoyagi T, Nagata H, Nishizaki A, Kakino T, Ishikita A, Yamamura K, Sakamoto I, Tanaka M, Abe K, Ogawa Y	BMC Gastroenterology	25	1	341	2025	10.1186/s12876-025-03965-1
22	Successful transcatheter closure of atrial septal defect with gore cardioform atrial septal defect occluder in an adult patient with anomalous origin of left coronary circumflex artery.	Asakawa S, Kakino T, Sakamoto I, Nishizaki A, Ishikita A, Abe K	Cardiovascular Intervention and Therapeutics	40	3	731-732	2025	10.1007/s12928-025-01122-9
23	Perforation of the chest wall from bioprosthetic pulmonary valve endocarditis.	Nishizaki A, Ishikita A, Kakino T, Sakamoto I, Shiose A, Kinugawa S	Journal of Echocardiography	23	1	53-54	2025	10.1007/s12574-024-00647-x
24	Association between the urinary sodium-to-potassium ratio and apparent treatment-resistant hypertension in Japanese patients with non-dialysis dependent chronic kidney disease: The Fukuoka kidney disease registry study.	Matsukuma Y, Tanaka S, Nakayama M, Kitamura H, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T	Hypertension Research	48	8	2163-2172	2025	10.1038/s41440-025-02237-5
25	Predictors of encapsulated peritoneal sclerosis in patients undergoing peritoneal dialysis using neutral-pH dialysate.	Nakano T, Kitamura H, Tsuneyoshi S, Tsuchimoto A, Torisu K, Tsujikawa H, Kawanishi H, Tsuruya K, Kitazono T	Clinical and Experimental Nephrology	29	2	212-220	2025	10.1007/s10157-024-02565-9

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
26	NEDD4-binding protein 1 suppresses hepatitis B virus replication by regulating viral RNAs.	Kobayashi N, Suzuki S, Sakamoto Y, Suzuki R, Mori K, Kosugi Y, Saito T, Ma Y, Liang L, Izumi T, Noda K, Okuzaki D, Kanegae Y, Hayashi S, Tanaka Y, Yamashita A, Moriishi K, Matsuura Y, Takeuchi O, Tamura T, Taketomi A, Fukuhara T	Journal of General Virology	106	3	002082	2025	10.1099/jgv.0.002082
27	Novel protocol for prevention from hepatitis B reactivation following living-donor liver transplantation.	Izumi T, Toshima T, Itoh S, Yoshiya S, Bekki Y, Iseda N, Tsutsui Y, Toshida K, Nakayama Y, Ishikawa T, Yoshizumi T	Hepatology Research	55	1	12-21	2025	10.1111/hepr.14110
28	Validity and reliability of a noninvasive device for measuring laryngeal movement during swallowing.	Omori F, Fujiu-Kurchi M, Hirata A, Yamano T	Cureus	17	2	e78873	2025	10.7759/cureus.78873
29	CD155 expression predicts poor prognosis in OTSCC and correlates with TIGIT expression and tumor budding.	Kimura S, Aoki M, Nishi K, Takeuchi T, Yamano T, Sakata T, Tsunoda T, Hamasaki M	Anticancer Research	45	8	3511-3522	2025	10.21873/anticancer.17712
30	Spatial transcriptomics of the epipharynx in long COVID identifies SARS-CoV-2 signalling pathways and the therapeutic potential of epipharyngeal abrasive therapy.	Nishi K, Yoshimoto S, Tanaka T, Kimura S, Tsunoda T, Watanabe A, Teranaka K, Oguma Y, Ogawa H, Kumai T, Yamano T	Scientific Reports	15	1	8618	2025	10.1038/s41598-025-92908-7
31	Collaboration between acute care hospitals and nursing homes for dysphagia management: A comparative study of patients with and without pneumonia-related hospitalization.	Yamano T, Kimura S, Omori F, Wada K, Tanaka M, Tsutsumi T	Cureus	17	3	e81400	2025	10.7759/cureus.81400
32	Five-year outcome of aflibercept administration with "treat and extend" for neovascular age-related macular degeneration.	Wada I, Oshima Y, Fukuda Y, Shiose S, Kano K, Ishikawa K, Nakao S, Kaizu Y, Hasegawa E, Kannan R, Ishibashi T, Sonoda K	Clinical Ophthalmology	19	-	835-845	2025	10.2147/opth.s501953
33	Treatment outcomes of patients with neovascular age-related macular degeneration after switching from aflibercept to faricimab.	Oshima Y, Himeno N, Nakamura T, Ando Y, Takaki N, Hirata M, Yamamoto A	Japanese Journal of Ophthalmology	-	-	-	2025	10.1007/s10384-025-01287-z
34	Investigation of teicoplanin trough concentrations and safety following high-dose loading in a pediatric population.	Okuzono S, Yamada T, Motomura Y, Kanemasa H, Ishimura M, Koga Y, Torisu H, Kanno S, Ieiri I, Ohga S	Therapeutic Drug Monitoring	47	7	537-544	2025	10.1097/ftd.0000000000001302
35	Altered lipidomic and metabolomic status in cerebrospinal fluid of children with myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disorder.	Fee Chong P, Kajiwara K, Ueno Y, Akamine S, Torisu H, Kira R, Ohga S, Sakai Y	Biochemistry and Biophysics Reports	44	-	102233	2025	10.1016/j.bbrep.2025.102233
36	Histiocytic sarcoma: A review and update.	Shinohara Y, Nakayama S, Aoki M, Nishio J	International Journal of Molecular Sciences	26	17	8554	2025	10.3390/ijms26178554
37	Long-term clinical outcomes of posterior monolithic and porcelain-fused zirconia crowns: A retrospective cohort study.	Takaesu Y, Taniguchi Y, Kaga N, Yamaguchi Y, Kakura K, Suzuki N, Matsuura T	The Journal of Prosthetic Dentistry	133	6	1475-1483	2025	10.1016/j.prosdent.2025.01.033
38	Changes in general and dental-specific ageism following home-visit clinical training with older adults: A quasi-experimental pre-post study.	Fujimoto A, Izumi M, Imai Y, Suzuki N, Akifusa S	Journal of Dental Education	-	-	-	2025	10.1002/jdd.70095
39	Development of a simple new method to detect oral malodor using a hydrogen sulfide detector tube.	Takatori J, Suzuki N, Hanioka T, Yoneda M	International Journal of Dentistry	2025	-	2255278	2025	10.1155/ijod/2255278
40	Usefulness of text mining in research on fluoride application and dental caries prevention.	Okada A, Nomura Y, Kakuta E, Ariyoshi M, Kikuchi T, Otsuka R, Sogabe K, Haneda N	Journal of Dental Health	75	4	217-229	2025	10.5834/jdh.75.4_217
41	Adaptor protein CARD9 is required for systemic host defense against <i>Candida auris</i> .	Toyonaga K, Kishikawa S, Nagao J, Iwanuma A, Iwai S, Tanaka Y	iScience	28	11	113864	2025	10.1016/j.isci.2025.113864
42	Fungal pathogen-responsive Th17 cells in gut-mouth axis enhance protection against oropharyngeal candidiasis.	Kaji E, Nagao J, Kishikawa S, Toyonaga K, Tasaki S, Iwai S, Nakagami M, Iwanuma A, Ikeda M, Tanaka Y	iScience	28	6	112675	2025	10.1016/j.isci.2025.112675

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
43	Ammonia reduces glutamine synthetase expression in astrocytes via activation of Hippo-YAP signaling pathways.	Nasu Y, Kishikawa S, Imai M, Yokoyama N, Iida I, Tabeta K, Terunuma M	Communications Biology	8	1	1810	2025	10.1038/s42003-025-09191-5
44	Fabrication of resin cements capable of disintegrating by near-infrared radiation intended for cemented prosthesis removal.	Kajimoto N, Maruta M, Minamisawa H, Sato T, Hamada K, Tsuru K	Dental Materials Journal	44	1	24-33	2025	10.4012/dmj.2024-170
45	Carbonate content regulation of the set carbonate apatite cement starting from vaterite and monetite by using various sodium phosphate solutions.	Sato T, Maruta M, Minamisawa H, Kajimoto N, Tsuru K	Ceramics International	51	5	6654-6659	2025	10.1016/j.ceramint.2024.12.109
46	Fabrication and histological evaluation of calcium sulfate hemihydrate coated $\beta$ -tricalcium phosphate granules through dissolution-precipitation method.	Eddy, Tsuchiya A, Tsuru K, Ishikawa K	Ceramics International	51	28	58942-58950	2025	10.1016/j.ceramint.2025.10.113
47	Tumor-infiltrating B cells produce tumor-specific antibodies and may contribute to suppressing tumor in head and neck squamous cell carcinoma.	Sameshima J, Chen H, Kaneko N, Yan L, Yokomizo S, Sueyoshi T, Nagano H, Sakamoto T, Tanaka S, Maruse Y, Hattori T, Kitamura R, Hayashi Y, Maehara T, Fujii S, Kiyoshima T, Guy T, Giedraityte Z, Kumamaru W, Moriyama M, Kawano S	Oncoimmunology	14	1	2543019	2025	10.1080/2162402X.2025.2543019
48	Dysbiosis of the gut microbiome may contribute to the pathogenesis of oral lichen planus through Treg dysregulation.	Yokomizo S, Kaneko N, Chen H, Yan L, Tsuji S, Akagawa S, Sameshima J, Sueyoshi T, Nagano H, Miyahara Y, Kamikaseda Y, Kido H, Hayashi Y, Yamauchi M, Kiyoshima T, Goto Y, Ohyama Y, Kaneko K, Moriyama M, Kawano S	Mucosal Immunology	18	5	1013-1026	2025	10.1016/j.mucimm.2025.05.009
49	The impact of environmental enrichment on energy metabolism in ovariectomized mice.	Ju C, Ogura A, Hayashi Y, Kawabata Y, D'Acquisto F, Kawakubo-Yasukochi T, Jimi E	Plos One	20	4	e0320180	2025	10.1371/journal.pone.0320180
50	Hypoxia contributes to the early-stage progression of necrotizing sialometaplasia.	Yoshimoto S, Yada N, Ishikawa A, Kawano K, Matsuo K, Hiraki A, Okamura K	The American Journal of Pathology	195	6	1074-1084	2025	10.1016/j.ajpath.2025.01.015
51	Piezo1 is related to the enamel matrix formation in mouse tooth germ development.	Wada H, Abe M, Wada N, Yoshimoto S, Fujii S, Moriyama M, Mori Y, A Kido M, Kiyoshima T	Journal of Cellular Physiology	240	4	e70036	2025	10.1002/jcp.70036
52	Piezo1 promotes double-directional differentiation from human periodontal ligament progenitor cells.	Kono Y, Kajiya H, Nagano R, Tominaga C, Maeda H, Fujita T, Tamaoki S	Journal of Oral Biosciences	67	2	100651	2025	10.1016/j.job.2025.100651
53	TGF- $\beta$ 1 induces super-enhancers at the loci of the EMT-related genes in human keratinocyte HaCaT cells.	Takeda K, Nagaoka Y, Tamaoki S, Hatta M	Gene	965	-	149668	2025	10.1016/j.gene.2025.149668
54	Multiple antiviral mechanisms of ephedrae herba and cinnamomi cortex against influenza: Inhibition of entry and replication.	Fujikane A, Fujikane R, Sechi Y, Nishi A, Ishino Y, Hiyoshi T, Sakamoto A, Nabeshima S	Microbiology Spectrum	13	6	e00371-25	2025	10.1128/spectrum.00371-25
55	4-octyl itaconate attenuates cell proliferation by cellular senescence via glutathione metabolism disorders and mitochondrial dysfunction in melanoma.	Hayashi Y, Saeki A, Yoshimoto S, Yano E, Yasukochi A, Kimura S, Utsunomiya T, Minami K, Aso Y, Hatakeyama Y, Lo Y, Hirata M, Jimi E, Kawakubo-Yasukochi T	Antioxidants & Redox Signaling	42	10-12	547-565	2025	10.1089/ars.2024.0629
56	DNA polymerase delta 2 activates cell cycle in lung adenocarcinoma, leading to high malignancy and poor prognosis.	Hashinokuchi A, Kinoshita F, Iimori M, Kosai K, Ono Y, Tomonaga T, Giacomo B, Matsudo K, Nagano T, Akamine T, Kohno M, Takenaka T, Oda Y, Yoshizumi T	Annals of Surgical Oncology	32	6	4487-4496	2025	10.1245/s10434-025-17118-x
57	Photocurable resin composites with silica micro- and nano-fillers for 3D printing of dental restorative materials.	Karntiang P, Ikeda H, Nagamatsu Y, Shimizu H	Journal of Composites Science	9	8	405	2025	10.3390/jcs9080405

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
58	Nationwide population-based surveillance of invasive pneumococcal disease in children in Japan (2014-2022): Impact of 13-valent pneumococcal conjugate vaccine and COVID-19 pandemic.	Takeuchi N, Chang B, Ishiwada N, Cho Y, Nishi J, Okada K, Fujieda M, Oda M, Saitoh A, Hosoya M, Ishiguro N, Takahashi K, Ozawa Y, Suga S	Vaccine	54	-	127138	2025	10.1016/j.vaccine.2025.127138

### 3.症例報告

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Providing a monolithic zirconia fixed partial denture with rigid and nonrigid connectors to overcome nonparallel abutment teeth.	Takaesu Y, Isshi K, Toguchi T, Matsuura T	The Journal of Prosthetic Dentistry	133	2	335-339	2025	10.1016/j.prosdent.2024.03.043
2	A case of functional recovery in a patient with rheumatoid arthritis using magnetic attachment overdentures.	Tsuzuki T, Maeshiba M, Hamanaka I	The Journal of the Japanese Society of Magnetic Applications in Dentistry	34	2	1-3	2025	-
3	Metastasis of pancreatic carcinoma to the mandibular bone: A case report.	Kitamura R, Sakamoto T, Kaneko N, Mikami Y, Maruse Y, Tanaka S, Hattori T, Sameshima J, Sueyoshi T, Murakami Y, Nagano H, Kawano S	Case Reports in Oncology	18	1	1186-1192	2025	10.1159/000547207
4	Transvenous establishment of a dual-chamber pacing in a patient with total cavopulmonary connection using extracardiac conduit.	Nagayama T, Mukai Y, Sakamoto I, Deguchi Miyamoto H, Sakamoto K, Takase S, Ishikita A, Kakino T, Nishizaki A, Abe K	Journal of Cardiovascular Electrophysiology	36	5	1103-1106	2025	10.1111/jce.16626
5	Thermal burn of the larynx in a child caused by microwaved food.	Kawamoto K, Sato S, Kaki A, Nishi T, Yamano T	Cureus	17	12	e99610	2025	10.7759/cureus.99610
6	Gnathostomiasis presenting with migratory swelling.	Tomari Y, Kurokawa M, Nakano-Nakamura M, Kokubo-Tanaka M, Lee S	The Journal of Pediatrics	280	-	114511	2025	10.1016/j.jpeds.2025.114511
7	Multinodular/plexiform schwannoma of the ankle: A case report and literature review.	Shinohara Y, Chijiwa Y, Nishio J	Cancer Diagnosis & Prognosis	5	6	766-771	2025	10.21873/cdp.10492
8	Oral metastatic tumor (renal cell carcinoma) in maxillary gingiva: A case report and systematic review.	Nakako Y, Fujimoto T, Wada H, Yoshihama N, Kami Y, Fujii S, Kohashi K, Kumamaru W, Chikui T, Moriyama M, Kiyoshima T	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	37	4	839-848	2025	10.1016/j.ajoms.2025.01.004

## 別表1 2025年研究業績(欧文)一覽

### [福岡看護大学]

#### 1.総説

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Prevalence and treatments of Sleep-Disordered breathing in people with down syndrome: A narrative review.	Sawatari H, Chishaki A, Ando S	Sleep and Breathing	29	5	1-10	2025	10.1007/s11325-025-03447-4

#### 2.原著

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Nationwide population-based surveillance of invasive pneumococcal disease in children in Japan (2014-2022): Impact of 13-valent pneumococcal conjugate vaccine and COVID-19 pandemic.	Takeuchi N, Chang B, Ishiwada N, Cho Y, Nishi J, Okada K, Fujieda M, Oda M, Saitoh A, Hosoya M, Ishiguro N, Takahashi K, Ozawa Y, Suga S	Vaccine	54	-	127138	2025	10.1016/j.vaccine.2025.127138
2	Comparing COVID-19 literacy and vaccine hesitancy among health care workers, including oral health professionals, in Japan.	Ueno F, Haresaku S, Iino H, Taguchi T, Sakagami R, Matsumoto K, Kudo K, Yoneda M, Chishaki A, Okada K	BDJ Open	11	1	1-7	2025	10.1038/s41405-024-00282-9
3	Social Independence and Lifestyles in Patients with Repaired Tetralogy of Fallot—Secondary Publication.	Shinbara R, Sawatari H, Yamasaki K, Kang M, Sakamoto I, Yamamura K, Nagata H, Tsutsui H, Chishaki H, Tokunou T, Chishaki A	Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery	9	1	10-22	2025	10.24509/jpccs.24-002
4	A cross-sectional survey on health status and work stress in different medical professionals at five university hospitals, focusing on each occupation.	Chishaki A, Sawatari H, Nishikitani M, Izukura R, Kido MA, Moriya F, Kawanami S, Yasumoto S, Taketomi K, Fujino Y, Nagayoshi K, Kato K, Nakashima N, Chishaki H	Journal of UOEH	47	2	27-43	2025	10.7888/juoeh.47.27
5	Differences in health condition, effort–reward imbalance, and quality of working life among medical professionals between the Philippines and Japan: A cross-sectional comparative study.	Nagayoshi K, Nishikitani M, Izukura R, Zaguirre KP, Velasquez VVD, Kato K, Nakamura M, Chishaki A	Advances in Public Health	2025	-	1-12	2025	10.1155/adph/4624858
6	Evaluation of an interprofessional oral healthcare and nursing care programme for dental and nursing students.	Haresaku S, Naito T, Aoki H, Miyazono M, Monji M, Umezaki Y, Uchida S, Iwamoto R, Nakashima F, Masuzaki T, Yamanaka T, Akinaga K, Chishaki A	European Journal of Dental Education	-	-	-	2025	10.1111/eje.70054
7	Efficacy of sinus rhythm maintenance after catheter ablation for atrial fibrillation in patients with transthyretin amyloid cardiomyopathy.	Yakabe D, Inoue S, Sakamoto K, Takase S, Nozoe M, Mannoji H, Tanaka A, Nagaoka K, Morishige K, Kawai S, Mukai Y, Nakamura T, Chishaki A, Abe K, Fukuoka Heart Rhythm Research Investigators	Heart Rhythm	22	12	e1221-e1229	2025	10.1016/j.hrthm.2025.04.020
8	Impression evaluation of middle-aged female model faces with different tooth and skin colors—A generational comparison.	Kuroki M, Yamashita H, Shoyama S	Japanese Journal of Dental Esthetics	38	1	9-20	2025	10.60256/sikas-inbi.38.1_9
9	Nursing attire suitable for breastfeeding by hospitalized postpartum mothers and breast care by midwives.	Nakanishi M, Aoki H, Komatsu M, Shoyama S	The Korean Fashion and Textile Research Journal	27	1	67-75	2025	10.5805/sfti.2025.27.1.67
10	Inpatients' impressions of hospital bedding in different colors and patterns— A survey involving psychiatric wards —	Hara Y, Aiura M, Nakashima F, Shoyama S	JOURNAL of the JAPAN RESEARCH ASSOCIATION for TEXTILE END-USES	66	11	607-614	2025	10.11419/senshoshi.66.11_607
11	A nationally representative US health and retirement study on mammography screening use and its predictors among older adult women ages 60 to 85.	Sy A, Kataoka-Yahiro M, Davis J, Pirani S, Kinoshita Y, Harada N, Kanaoka M, Miyazono M	Breast Cancer: Basic and Clinical Research	19	-	1-9	2025	10.1177/11782342511392690
12	External validation of a risk prediction model for atherosclerotic cardiovascular diseases in a large national health-checkup and claim database.	Honda T, Furuta Y, Maezono A, Chen S, Ishida Y, Furuhashi H, Kumamoto M, Oishi E, Kimura Y, Yoshida D, Ninomiya T	Journal of the American Heart Association	14	16	e040386	2025	10.1161/jaha.124.040386

## 別表1 2025年研究業績(欧文)一覧

### [福岡医療短期大学]

#### 1.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Comparing COVID-19 literacy and vaccine hesitancy among health care workers, including oral health professionals, in Japan.	Ueno F, Haresaku S, Iino H, Taguchi T, Sakagami R, Matsumoto K, Kudo K, Yoneda M, Chishaki A, Okada K	BDJ Open	11	1	1-1	2025	10.1038/s41405-024-00282-9
2	Questionnaire survey on the long-term quality of life of patients with congenital esophageal atresia in Japan.	Hoshi R, Uehara S, Fujishiro J, Koshinaga T, Taguchi T	Surgery Today	55	8	1132-1137	2025	10.1007/s00595-025-03010-4
3	Impression evaluation of middle-aged female model faces with different tooth and skin colors — A generational comparison—	Kuroki M, Yamashita H, Shoyama S	Japanese Journal of Dental Esthetics	38	1	9-20	2025	10.60256/sikas-inbi.38.1_9
4	Quantitative evaluation of the cheek area after maxillary advancement and rotation by orthognathic surgery in skeletal maxillary retrusion.	Miyahara K, Izumi K, Moriyama T, Tokunaga K, Ikebe T	Oral Science International	22	1	10.1002/osi2.1259	2025	10.1002/osi2.1259
5	Morphological changes of cheek soft tissue due to orthognathic surgery of maxillary advancement, rotation, and mandibular setback	Izumi K, Moriyama T	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	37	5	941-946	2025	10.1016/j.ajoms.2025.04.015

別表2 令和7年度科学研究費助成事業決定状況

【福岡歯科大学】

(単位：千円)

区 分 種 目	令和7年度						前年度比較増減(R7-R6)						令和6年度						
	申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額		計	申請 件数	内定 件数	採択増減率	内定額		計	申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額		計	
				直接経費	間接経費					直接経費	間接経費					直接経費	間接経費		
新学術領域研究																			
継続																			
新規																			
継続																			
新規																			
継続																			
新規	1	1		11,700	3,510	15,210	0	0	0%	0	0	0	0	0		0	0	0	0
継続	5	0	0%			0	0	-1	-25%	-3,400	-1,020	-4,420	4	1	25%	3,400	1,020	4,420	4,420
新規	3	3		11,900	3,570	15,470	0	0		2,000	600	2,600	3	3		9,900	2,970	12,870	12,870
継続	78	12	15%	19,300	5,790	25,090	-5	-1	0%	-2,100	-630	-2,730	83	13	16%	21,400	6,420	27,820	27,820
新規	25	25	100%	23,300	6,990	30,290	3	3	100%	-900	-270	-1,170	22	22		24,200	7,260	31,460	31,460
継続	1	1		4,300	1,290	5,590	0	1		4,300	1,290	5,590	1	0	0%				
継続							0	0		0	0	0	0	0					
新規	4	0	0%			0	0	0	0%	0	0	0	6	0	0%				
継続							0	0		0	0	0	0	0					
新規	27	2	7%	2,000	600	2,600	5	-1	-6%	-2,200	-660	-2,860	22	3	14%	4,200	1,260	5,460	5,460
継続	7	7		7,900	2,370	10,270	-2	-2		-2,700	-810	-3,510	9	9		10,600	3,180	13,780	13,780
新規	6	1	17%	1,000	300	1,300	-11	-2	-1%	-2,100	-630	-2,730	17	3	18%	3,100	930	4,030	4,030
継続	3	3		3,300	990	4,290	0	0		100	30	130	3	3		3,200	960	4,160	4,160
合計	121	16	13%	26,600	7,980	34,580	-12	-4	-2%	-5,500	-1,650	-7,150	133	20	15%	32,100	9,630	41,730	41,730
継続	39	39		58,100	17,430	75,530	1	1		-1,200	-360	-1,560	38	38		59,300	17,790	77,090	77,090
総合計	160	55		84,700	25,410	110,110	-11	-3		-6,700	-2,010	-8,710	171	58		91,400	27,420	118,820	118,820

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

別表3 令和7年度科学研究費助成事業決定状況

【福岡看護大学】

(単位：千円)

区分 種目	令和7年度						前年度比較増減(R7-R6)						令和6年度					
	申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額		計	申請 件数	内定 件数	採択増減率	内定額		計	申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額		
				直接経費	間接経費					直接経費	間接経費					直接経費	間接経費	
新学術領域研究																		
新規					0	0	0	0%			0	0	0	0				
継続					0	0	0				0	0	0					
基礎研究(S)																		
新規					0	0	0%				0	0	0					
継続					0	0					0	0	0					
基礎研究(A)																		
新規					0	0	0%				0	0	0					
継続					0	0					0	0	0					
基礎研究(B)																		
新規	1	1	100%	7,000	2,100	9,100	0	1	100%	7,000	2,100	9,100	1	0	0%			
継続	1	1		2,300	690	2,990	0	0		400	120	520	1	1		1,900	570	2,470
基礎研究(C)																		
新規	20	5	25%	6,500	1,950	8,450	-5	-3	-7%	-3,600	-1,080	-4,680	25	8	32%	10,100	3,030	13,130
継続	9	9		7,520	2,256	9,776	2	2		3,720	1,116	4,836	7	7		3,800	1,140	4,940
挑戦的研究 (開拓)																		
新規					0	0	0	0%			0	0	0					
継続					0	0	0				0	0	0					
挑戦的研究 (萌芽)																		
新規					0	0	0%				0	0	0					
継続	1	0	0%				1	0	0%									
若手研究																		
新規	0	0			0	0	-1	0	0%				1	0				
継続	5	0	0%				-2	-1	-14%	-1,800	-540	-2,340	7	1	14%	1,800	540	2,340
研究活動 スタート支援																		
新規	1	1		400	120	520	1	1		400	120	520						
継続	27	6	22%	13,500	4,050	17,550	-7	-3	-4%	1,600	480	2,080	34	9	26%	11,900	3,570	15,470
合計	11	11		10,220	3,066	13,286	2	2		3,520	1,056	4,576	9	9		6,700	2,010	8,710
総合計	38	17		23,720	7,116	30,836	-5	-1		5,120	1,536	6,656	43	18		18,600	5,580	24,180

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

# 別表4 令和7年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡医療短期大学】

(単位：千円)

区分 種目	令和7年度						前年度比較増減(R7-R6)						令和6年度					
	申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額		計	申請 件数	内定 件数	採択増減率	内定額		計	申請 件数	内定 件数	新規採択率	内定額		計
				直接経費	間接経費					直接経費	間接経費					直接経費	間接経費	
新学術領域研究	新規			0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0		0	0	0
	継続			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
基盤研究(S)	新規			0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0		0	0	0
	継続			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
基盤研究(A)	新規			0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0		0	0	0
	継続			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
基盤研究(B)	新規			0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0		0	0	0
	継続	1	1	1,400	420	1,820	0	0	0	0%	-1,200	-360	1	1	2,600	780	3,380	
基盤研究(C)	新規	8	2	3,100	930	4,030	2	1	8%	1,200	360	6	1	1,900	570	2,470		
	継続	2	2	1,300	390	1,690	-2	-2	-2	-2,600	-780	4	4	3,900	1,170	5,070		
挑戦的研究 (開拓)	新規	1	0	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	
	継続			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	
挑戦的研究 (萌芽)	新規	2	0	0	0	0	0	-1	-50%	-2,300	-690	2	1	2,300	690	2,990		
	継続	1	1	1,100	330	1,430	0	0	0	-100	-30	1	1	1,200	360	1,560		
若手研究	新規			0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0	0	
	継続			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
研究活動 スタート支援	新規			0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0	0	
	継続			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	
小計	新規	11	2	3,100	930	4,030	2	0	-4%	-1,100	-330	9	2	4,200	1,260	5,460		
	継続	6	6	3,800	1,140	4,940	0	0	0	-3,900	-1,170	6	6	7,700	2,310	10,010		
	学振合計	17	8	6,900	2,070	8,970	2	0	0	-5,000	-1,500	15	8	11,900	3,570	15,470		
厚労科 研	新規			0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0	0	
	継続	1	1	26,138	7,579	33,717	0	0	0	-962	-81	1	1	27,100	7,660	34,760		
	新規			0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0		0	0		
小計	新規	1	1	26,138	7,579	33,717	0	0	0	-962	-81	1	1	27,100	7,660	34,760		
	継続	1	1	26,138	7,579	33,717	0	0	0	-962	-81	1	1	27,100	7,660	34,760		
	厚労省等合計	2	2	52,276	15,158	67,434	0	0	0	-1,924	-162	2	2	54,200	15,320	69,520		
合計	新規	11	2	3,100	930	4,030	2	0	-4%	-1,100	-330	9	2	4,200	1,260	5,460		
	継続	7	7	29,938	8,719	38,657	0	0	0	-4,862	-1,251	7	7	34,800	9,970	44,770		
	総合計	18	9	33,038	9,649	42,687	2	0	0	-5,962	-1,581	16	9	39,000	11,230	50,230		

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

## 別表5 令和7年度海外研修派遣一覧表

第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
成長発達歯学講座	教授	岡 暁子	引率及び学術交流協議	イギリス リバプール	R7. 5. 17	R7. 5. 24
口腔治療学講座	教授	松崎 英津子	引率及び学術交流協議	カナダ バンクーバー	R7. 5. 19	R7. 5. 25
	客員教授	池邊 哲郎	学会	シンガポール シンガポール	R7. 5. 22	R7. 5. 25
口腔・顎顔面外科学講座	講師	横尾 嘉宣	学会	シンガポール シンガポール	R7. 5. 22	R7. 5. 26
咬合修復学講座	教授	都築 尊	引率及び学術交流協議	中国 上海	R7. 5. 25	R7. 5. 31
咬合修復学講座	助教	江頭 敬	学会	アメリカ ラスベガス	R7. 5. 28	R7. 6. 3
成長発達歯学講座	講師	梶原 弘一郎	研修	アメリカ ツーソン	R7. 5. 29	R7. 6. 11
成長発達歯学講座	助教	國見 亮太	研修	アメリカ ツーソン	R7. 5. 29	R7. 6. 11
成長発達歯学講座	医員	上地 有香	研修	アメリカ ツーソン	R7. 5. 29	R7. 6. 11
成長発達歯学講座	医員	高橋 沙希	研修	アメリカ ツーソン	R7. 5. 29	R7. 6. 11
総合歯科学講座	教授	内藤 徹	学会	スペイン バルセロナ	R7. 6. 23	R7. 6. 30
成長発達歯学講座	助教	田口 雅英	学会	スペイン バルセロナ	R7. 6. 23	R7. 6. 30
成長発達歯学講座	講師	梶原 弘一郎	学会	スペイン バルセロナ	R7. 6. 23	R7. 6. 30
生体構造学講座	講師	林 慶和	学会	スペイン バルセロナ	R7. 6. 24	R7. 6. 30
歯科医療工学講座	講師	梶本 昇	学会	スペイン バルセロナ	R7. 6. 24	R7. 6. 30
歯科衛生士部	歯科衛生士	南保 紺乃	歯科ボランティア活動	ミャンマー ヤンゴン	R7. 6. 29	R7. 7. 6
歯科衛生士部	歯科衛生士	吹春 かよ子	歯科ボランティア活動	ミャンマー ヤンゴン	R7. 6. 29	R7. 7. 6
総合歯科学講座	教授	米田 雅裕	学会	カナダ ケベック モントリオール	R7. 7. 7	R7. 7. 16
診断・全身管理学講座	教授	香川 豊宏	引率及び学術交流協議	韓国 ソウル	R7. 7. 20	R7. 7. 26
成長発達歯学講座	助教	田口 雅英	学会	南アフリカ ケープタウン	R7. 10. 21	R7. 10. 28
成長発達歯学講座	講師	梶原 弘一郎	学会	南アフリカ ケープタウン	R7. 10. 21	R7. 10. 28
医科歯科総合病院	言語聴覚士	大森 史隆	学会	タイ バンコク	R7. 11. 5	R7. 11. 8
総合医学講座	教授	山野 貴史	協議	タイ バンコク	R7. 11. 5	R7. 11. 8
口腔・顎顔面外科学講座	講師	横尾 嘉宣	学会	韓国 釜山	R7. 11. 6	R7. 11. 8
生体構造学講座	講師	林 慶和	打合せ及びセミナー講師	台湾 台北	R8. 1. 4	R8. 1. 7
咬合修復学講座	助教	江頭 敬	打合せ及びポスター発表	アメリカ合衆国 ニューヨーク、ワシントンDC	R8. 3. 2	R8. 3. 9
総合歯科学講座	教授	米田 雅裕	打合せ及び会議参加	タイ バンコク	R8. 3. 16	R8. 3. 19
細胞分子生物学講座	講師	進 正史	研究打合わせ	大韓民国 ソウル	R8. 3. 17	R8. 3. 18
	客員教授	池邊 哲郎	学会及び打合わせ	中国 香港	R8. 3. 26	R8. 3. 28

③第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

第1種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	派遣先	自	至
総合歯科学講座	大学院生	鷹取 諄	カナダ (ケベック)	R7. 5. 15	R7. 6. 22

③第1種海外研修派遣：1カ月以上1年以内の海外研修等

第2種研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
口腔インプラント学分野	大学院生	城戸 勇磨	研究	岩手県	R7. 4. 1	R8. 3. 31

③第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表6 令和7年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研修等名	場所	参加者
企画課	9/10	ビジネスマナー基礎研修	福岡市	佐藤 大誠
	10/2	日本私立大学協会 事務局長相当者研修会	北九州市	加藤 健
	12/8	事務職員研修	福岡市	森川 弥生
	12/8	事務職員研修	福岡市	佐藤 大誠
総務課	5/23	組織活性化SDセミナー	オンライン	田島 大寛
	7/16	改正育児介護休業法と実務対応セミナー	オンライン	田島 大寛
	8/28-29	日本私立大学協会 初任者研修会	福岡市	岩崎 凌大
	8/28	給与実務研修会	東京都	田島 大寛
	8/28	給与実務研修会	東京都	安武 宏高
	10/3	事務局長相当者研修会	北九州市	田島 大寛
	12/8	事務職員研修	福岡市	池田 麻美
	12/8	事務職員研修	福岡市	岩崎 凌大
	2/9	障害者雇用納付金制度事務説明会	福岡市	林 恭久
財務課	7/10	私立大学等経常費補助金相談会・説明会	福岡市	森田 俊
	11/20-21	日本私立大学協会 大学経理部課長相当者研修会	福島県	林 泰成
	12/8	事務職員研修	福岡市	豊福 直子
	12/12	アサーティブコミュニケーション研修	福岡市	林 泰成
	2/19	福岡西部法人会 決算事務説明会	福岡市	森田 俊
教育研究支援課	6/11	授業料等減免費交付金に係る業務説明会	福岡市	宮崎 智美
	6/26-28	公私立大学実験動物施設協議会及び実験動物管理者教育訓練	札幌市	和才 広輝
	7/10	令和7年度 私立大学等経常費補助金説明会	福岡市	宮崎 智美
	9/10	ビジネスマナー基礎研修	福岡市	石山 魁
	12/12	アサーティブコミュニケーション研修	福岡市	安藤 駿
	2/6	AMED事務処理説明会	東京都	石山 魁
学務課	6/10	授業料等減免費交付金に係る業務説明会	福岡市	平間 諒
	8/28-29	日本私立大学協会 初任者研修会	福岡市	平間 諒
	9/4	北部九州キャンパス防犯ネットワーク福岡、佐賀、筑後ブロック連絡会議	福岡市	平間 諒
	9/10	ビジネスマナー基礎研修	福岡市	平間 諒
	9/26-27	私立大学歯学部学生生活協議会	神奈川県	高松 裕一
	10/10	学生教育研究災害傷害保険説明会	福岡市	平間 諒
	12/8	事務職員研修	福岡市	浪治 研哉
	12/12	アサーティブコミュニケーション研修	福岡市	高松 裕一

別表6 令和7年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研修等名	場所	参加者
情報図書館課	6/17-6/18	学術情報基盤オープンフォーラム	東京都	長崎 聖子
	10/3	第73回九州地区医学図書館協議会総会	オンライン	外山琉璃子
	11/11-11/13	各層別サイバーセキュリティ研修 CSIRT研修（初級編）	オンライン	平野 太一
	11/28	第33回九州地区医学図書館員セミナー	オンライン	外山琉璃子
	11/30-12/3	大学ICT推進協議会	北海道	亀井 愛
	12/8	事務職員研修	福岡市	長崎 聖子
看護大学事務課	9/4	北部九州キャンパス防犯ネットワーク福岡、佐賀、筑後ブロック連絡会議	福岡市	宮里 駿土
	12/8	事務職員研修	福岡市	大村 さゆり
病院事務課	5/28	保健事業の一層の推進に伴うシステム説明会	オンライン	松本 夏海
	5/28	保健事業の一層の推進に伴うシステム説明会	オンライン	北條 成美
	5/28	保健事業の一層の推進に伴うシステム説明会	オンライン	吉田 誠子
	7/4	衛生管理者や衛生推進者の役割と職務	福岡市	太田 周吾
	7/9	九州歯科大学 特定共同指導情報交換会	北九州市	手塚 直哉
	7/9	九州歯科大学 特定共同指導情報交換会	北九州市	坂本 静
	7/17	福岡県歯科医師会 特定共同指導模擬受審	福岡市	佐藤 朱理
	7/17	福岡県歯科医師会 特定共同指導模擬受審	福岡市	岩崎美喜子
	7/17	福岡県歯科医師会 特定共同指導模擬受審	福岡市	田村 優実
	7/17	福岡県歯科医師会 特定共同指導模擬受審	福岡市	手塚 直哉
	7/17	福岡県歯科医師会 特定共同指導模擬受審	福岡市	實淵ひとみ
	7/17	福岡県歯科医師会 特定共同指導模擬受審	福岡市	深川 慎吾
	7/17	福岡県歯科医師会 特定共同指導模擬受審	福岡市	坂本 静
	7/17	福岡県歯科医師会 特定共同指導模擬受審	福岡市	横大路智視
	10/6	第46回附属病院管理運営事務研修会	東京都	坂本 静
	10/6	第46回附属病院管理運営事務研修会	東京都	横大路智視
	10/10	生活習慣病予防健診・特定保健指導実施機関事務説明会	オンライン	北條 成美
	10/10	生活習慣病予防健診・特定保健指導実施機関事務説明会	オンライン	吉田 誠子
	10/18	未来をつくる医業経営セミナー	福岡市	坂本 静
	11/19	診療情報管理研究研修会	福岡市	永田 舞
	12/8	事務職員研修	福岡市	田村 優実
	12/12	アサーティブコミュニケーション研修	福岡市	北條 成美
	12/16	九州歯科大学 臨床研修情報交換会	北九州市	多賀谷陽子
	12/16	九州歯科大学 臨床研修情報交換会	北九州市	藤田 淑乃
	12/16	九州歯科大学 電子カルテシステム情報交換会	北九州市	井上 美紀
	12/16	九州歯科大学 電子カルテシステム情報交換会	北九州市	坂本 静
12/19	三大学相互チェック 長崎大学病院	長崎市	太田 周吾	
12/19	三大学相互チェック 長崎大学病院	長崎市	手塚 直哉	
1/19	かかりつけ医療機能報告制度研修会	福岡市	坂本 静	

別表6 令和7年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研修等名	場所	参加者
病院事務課	1/22	令和7年度業務継続計画（BCP）策定研修	オンライン	太田 周吾
	1/29	三大学相互チェック 日本歯科大学附属病院	東京都	實渕ひとみ
	1/29	三大学相互チェック 日本歯科大学附属病院	東京都	坂本 静
	1/30	情報交換会 鶴見大学歯学部附属病院	神奈川県	實渕ひとみ
	1/30	情報交換会 鶴見大学歯学部附属病院	神奈川県	坂本 静
	2/13	診療報酬改定セミナー	福岡市	田村 優実
	3/24-25	自衛消防業務 集合型（対面式）講習	福岡市	田村 優実
教育支援・教学IR室 事務室	7/10	私立大学等経常費補助金相談会・説明会	福岡市	真島 晃子
	12/1-2	AXIES2025（大学ICT推進協議会）	北海道	真島 晃子

## 別表 7 令和 7 年度教職員研修結果

### ＜令和 7 年度研修基本方針＞

教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員が必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させることを目的とする。

その他、本基本方針を達成するため、都度必要な研修を行うことがある。

### ○階層別研修

研修名		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	採用時研修	新規採用事務職員	本学の概要、大学教職員の基礎知識、各課の紹介等	7月、9月実施	9名
2	若手・中堅職員研修	係長・主任・事務職員	初級者向け生成AI利活用研修	6月17日実施 (ビデオ受講)	73名 (31名)

### ○専門別研修

題 材		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	ハラスメント	管理職以外の教職員 ※嘱託職員も含む	アンガーマネジメント研修	7月3日実施 (ビデオ受講)	464名 (389名)
2	法律・教育	事務職員	私立学法の改正について 本学の教育方針と教育支援体制について	11月7日実施 (ビデオ受講)	87名 (44名)
3	教育	事務職員	看護大学授業参観	10月～12月実施	18名
4	コンプライアンス	研究に携わる教職員 ※嘱託職員も含む	コンプライアンス教育	オンライン受講	434名
5	ハラスメント	管理職教職員	セクシャルハラスメント研修	11月27日実施 (ビデオ受講)	83名 (30名)
6	人事考課	課長・課長補佐	人事考課のための考課者研修	12月17日実施	16名

別表 8 令和 7 年度 西部地区五大学連携懇話会研修参加者

受講日	研 修 名	主 催	場 所	参加者
9/10	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡市	平間 諒
9/10	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡市	佐藤 大誠
9/10	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡市	石山 魁
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	森川 弥生
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	佐藤 大誠
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	浪治 研哉
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	大村 さゆり
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	池田 麻美
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	岩崎 凌大
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	豊福 直子
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	長崎 聖子
12/8	事務職員研修	福岡大学	福岡市	田村 優実
12/12	アサーティブコミュニケーション研修	九州大学	福岡市	高松 裕一
12/12	アサーティブコミュニケーション研修	九州大学	福岡市	林 泰成
12/12	アサーティブコミュニケーション研修	九州大学	福岡市	安藤 駿
12/12	アサーティブコミュニケーション研修	九州大学	福岡市	北條 成美